

第3回 東静岡地区まちづくり協議会

議事次第

日時：令和7年1月30日（木）

10時00分～11時30分

場所：静岡市役所 静岡庁舎

新館17階 171・172 会議室

1 開 会

2 報 告

（1）「まちづくりアイデアコンペ in 東静岡」結果報告 資料1 資料2

（2）「静岡市アリーナ基本計画」 資料3

3 議 事

「東静岡地区まちづくり基本構想（骨子）」 資料4

4 そ の 他

今後の進め方

5 閉 会

第3回 東静岡地区まちづくり協議会 委員名簿

No.	氏 名	所属・役職等	専門・役割
1	なかむら なおやす 中村 直保	静岡市自治会連合会 会長	地域代表
2	すぎやま てるお 杉山 輝雄	千代田学区自治会連合会 会長	地域代表
3	しば たきお 柴 多喜男	伝馬町学区自治会連合会 会長	地域代表
4	おおき よしふみ 大木 義文	西豊田学区自治会連合会 会長	地域代表
5	たみや かずひこ 田宮 一彦	東豊田学区自治会連合会 会長	地域代表
6	ひらい たかし 平井 崇士	東海旅客鉄道株式会社 総合企画本部 企画開発部 担当課長	交通事業者（JR）
7	いけがや なおつぐ 池谷 直倫	静岡鉄道株式会社 未来事業創造部 グループ企画課 課長	交通事業者（静岡鉄道）
8	しばた ひでふみ 柴田 秀史	国土交通省 中部地方整備局 静岡国道事務所 計画課 課長	道路管理者（国道管理者）
9	いいだ まさと 飯田 将人	静岡県静岡中央警察署 交通課 課長	交通管理者（葵区）
10	おおつぼ ゆうじ 大坪 雄次	静岡県静岡南警察署 交通課 課長	交通管理者（駿河区）
11	ひらがた ゆうこ 平形 裕子	静岡県 スポーツ・文化観光部 政策管理局 企画政策課 課長	静岡県（県有地活用）
12	えんどう あらた 遠藤 新	工学院大学 建築学部 まちづくり学科 教授	学識経験者（座長）

【代理出席者】
交通課 規制係長 神保 隆希

【代理出席者】
交通課 規制係長 鈴木 拓翔

事務局	静岡市 都市局 都市計画部 都市計画課
-----	---------------------

概要

目的

(仮称) 静岡市アリーナ(計画中)を核とした「東静岡地区まちづくり基本構想」の作成にあたり、まちづくりに対する幅広い方々の多様なアイデアを提案していただくことを目的としてコンペを実施しました。

テーマ

“「新たな文化・スポーツの拠点づくり」と「快適で住みやすい住環境づくり」”
～最先端の文化・スポーツ・国際交流等による新たな交流・滞在と、安心して住み続けられる住環境が共存する、新時代のまちづくり～

募集部門

都市デザイン部門

主な対象者を、建築・まちづくりの専門家やそれらを専攻する学生とし、都市の将来像やその実現に向けた方策・プロセスについて、提案を募集しました。

まちを楽しむ部門

主な対象者を、地域でまちづくり活動をしている人や幅広い市民とし、広場・公園・街路等の公共的空間を活用して、新たな魅力や豊かな生活を生み出す活動のアイデアについて、提案を募集しました。

スケジュール

事前登録

令和6年7月26日(金)から
令和6年9月27日(金)まで

説明会

令和6年8月22日(木)
静岡市役所にて

提出受付

令和6年9月30日(金)から
令和6年10月31日(木)まで

1次審査

令和6年11月中旬(非公開)

最終審査

令和6年12月8日(金)
グランシップにて

最終審査では、プレゼンテーション・審査・表彰式を一般公開し、約140人が来場されました！

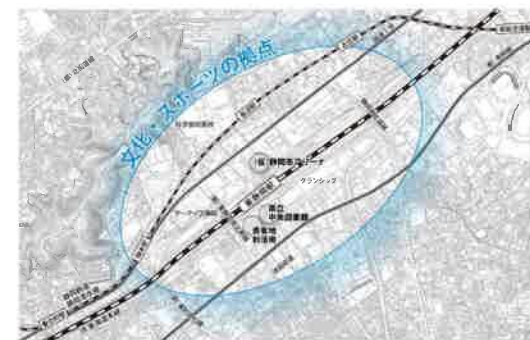


最終審査の様子

対象区域

提案の対象は、右記の「文化・スポーツの拠点」のエリアを中心としました。

このエリアに限らず周辺の主要な施設や資源等との連携など、東静岡地区との連携によりまち全体へ波及効果のある提案も可としました。



対象区域案内図

審査委員

遠藤 新 工学院大学 建築学部 まちづくり学科 教授
西 美有紀 (一社) 草薙カルテッド (都市再生推進法人)
長尾 亜子 静岡理科大学 理工学科 建築学科 準教授
中村 直保 静岡市自治会連合会 会長
小嶋 文 埼玉大学 理工学研究科 準教授
吉田 信博 静岡市 副市長

結果

令和6年11月中旬に実施された1次審査にて、最終審査に進む作品が選定されました。さらに12月8日(金)に開催した最終審査により、以下の各受賞作品が決定しました！

● 都市デザイン部門

作品名	所属等	氏名	参照
最優秀賞			
LIFE Streaming	(株)竹中工務店	小南 嘉久 (他3名)	4
優秀賞			
東静岡「緑と水が織りなす新しい東海道」 子育て世代が集う、持続可能な理想都市 -a foundation stone of an exemplary city-	デザインオフィス 創造舎	山梨 洋靖 (他2名)	5
入賞			
CONNECT PARTS CITY “HIGASHI SHIZUOKA”	東日本旅客鉄道(株)	青木 麻里子 (他3名)	6
「かいゆう」のまち	(株)アークポイント	吉田 敦 (他4人)	7
青春を育むまち 小さな活動を耕し、世代を超えて青春するまち	日本工営都市空間(株)	吉野 良佑 (他2名)	8
WEAVING NETWORK -東静岡の流れと変化を受け止める編み目-	Research + Design School in 静岡	高田 彩実 (他3名)	9
ヒガシズ 際立つ！ ～際立ちをきっかけに、人々が生き活きとしはじめる～	大成建設(株)	鈴木 隆博 (他6名)	10
Living in New Society	(株)アール・アイ・エー	松井 峻 (他3名)	11
まち まるごとアリーナ ～アリーナに頼りすぎない新たな副都心のつくりかた～	信州大学大学院	吉武 駿 (他1名)	12
マッシュアップ リング -ヒューマンスケールデザインによる”ヒガシズ文化”の形成-	(株)地域計画建築研究所	増見 康平 (他4名)	13

● まちを楽しむ部門

作品名	所属等	氏名	参照
審査委員特別賞・入賞			
みんなで紡ぐコミュニティガーデンとサイクリングロード	設備設計	松浦 智香	14
会場人気特別賞・入賞			
ノマド学習からはじまる若者の関わりしろ	静岡英和学院大学	青島 愛花	15
入賞			
マークイズ静岡が寄与する東静岡のまちづくり	三菱地所プロパティ マネジメント(株)	高田 光真 (他1名)	16
グランシップ前芝生公園を活用した「おかえりマルシェ」 の開催 ～東静岡駅付近の小学生へのアンケートをふまえて～	静岡県立大学	櫻井 莉子 (他1名)	17
安心してボール遊びのできる公園にするための工夫 ～公園×商業施設の実現に向けた実証実験～	静岡県立大学	小澤 由佳 (他1名)	18

● 学生未来賞※

※都市デザイン部門において、学生の努力や熱意を称えるため、審査委員が選定したもの

作品名	所属等	氏名	参照
enで紡ぐ東静岡	日本大学	吉田 明斗 (他7名)	19
てくてく東静岡	名城大学	松井 優星 (他2名)	20
Next東静岡 ～創る・継げる・結わえる街へ～	日本大学	藤崎 知輝 (他3名)	21
東静岡駅前巨大デッキ	静岡県立 科学技術高等学校	宮川 稔彬	22

応募件数

都市デザイン部門 28作品(96名)

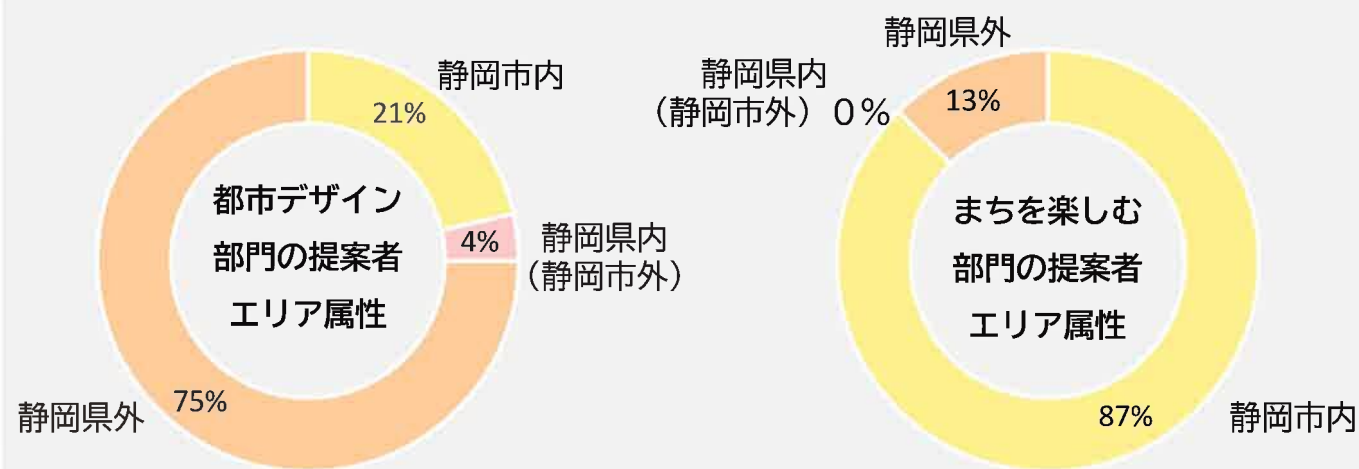
まちを楽しむ部門 8作品(11名)

総勢107名からの
ご提案がありました！

提案者の属性

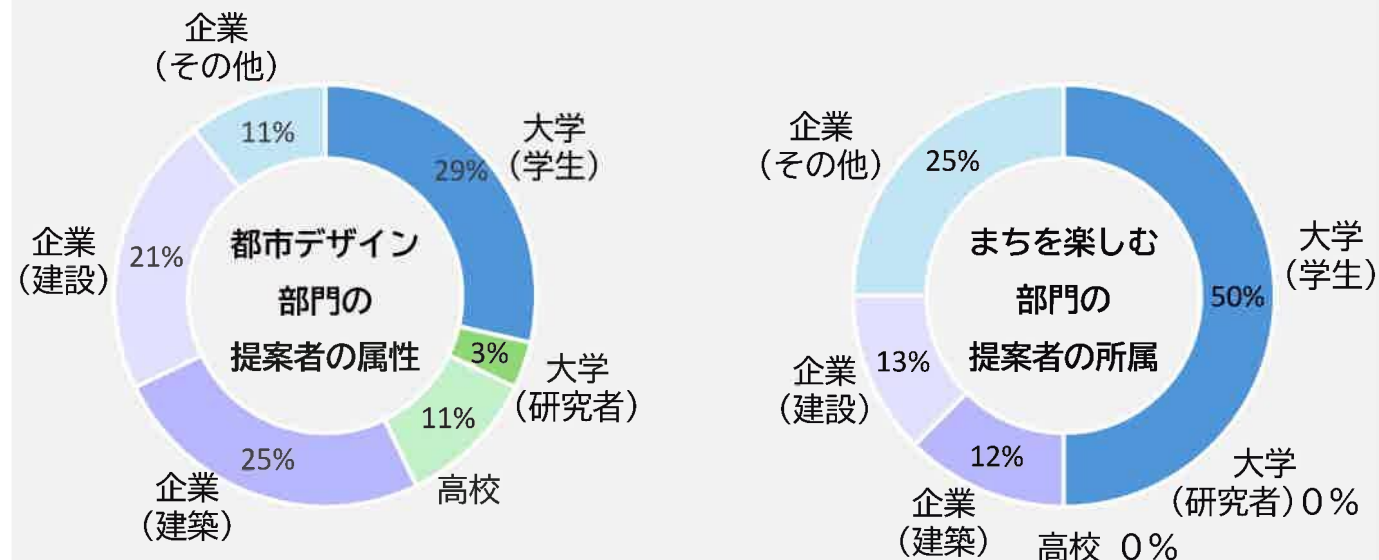
【提案者のエリア属性】

静岡市内にとどまらず、広い地域からの応募がありました。



【提案者の所属】

学生から社会人までの幅広い世代の方からの応募がありました。両部門の応募者を合わせると、15名もの学生がコンペに携わりました。



1次審査

東静岡の魅力を高める多数の応募作品の中から、最終審査に進む作品が決定！

各審査委員が推薦した作品に対する意見交換を行い、作品の評価すべきポイントを話し合いました。活発な議論を重ね、各部門の最終審査に進む作品を選出しました。また、「学生に将来もまちづくりに関わってほしい」「公の場（最終審査）で発表する経験を今後につなげてほしい」という東静岡地区まちづくり協議会委員や審査委員の想いから「学生未来賞」を追加し、4作品を選出しました。



最終審査

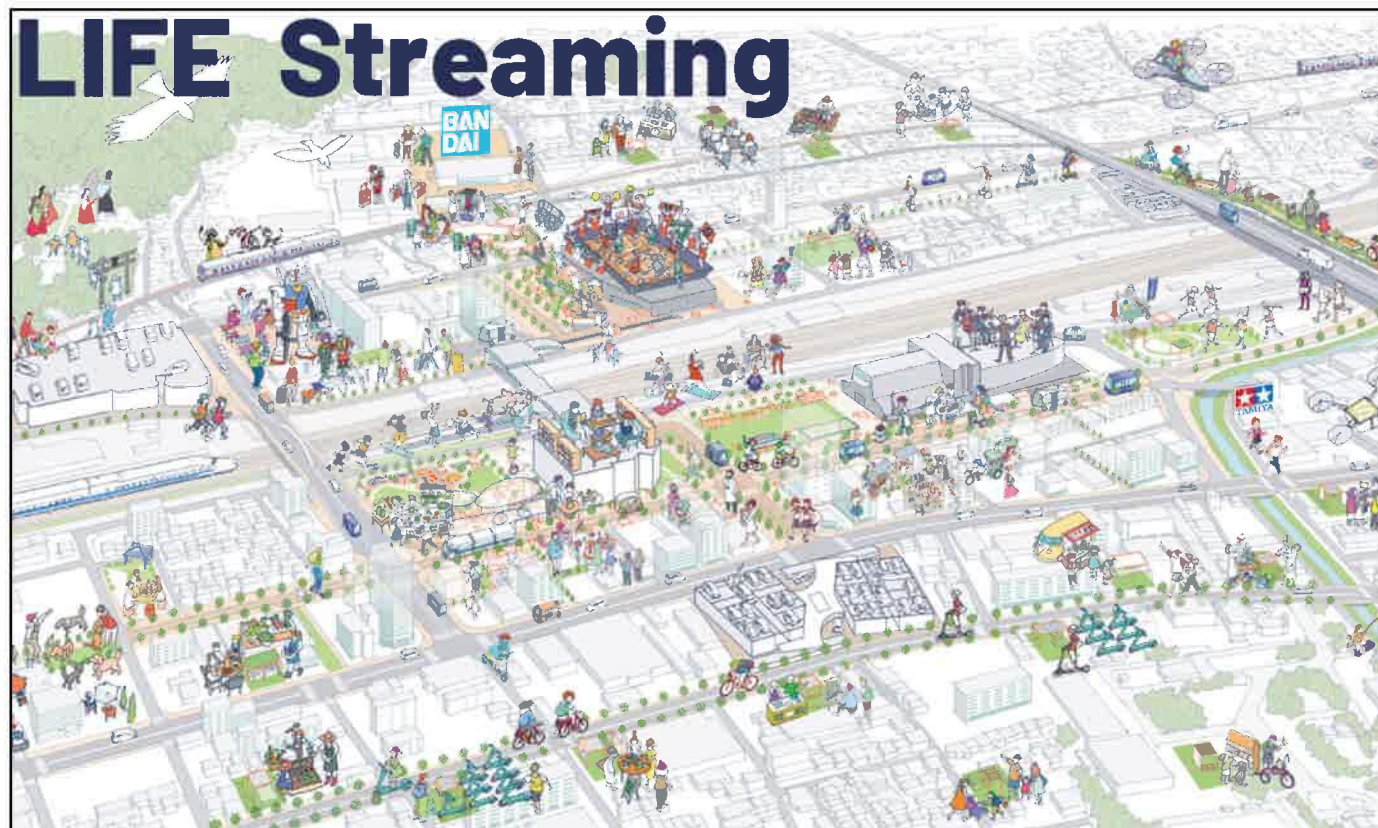
活発な議論を重ね、魅力的な作品の中から投票及び審査により各賞が決定！

最終審査は一般公開で多くの方に来場していただきました。オンライン投票を用いた会場人気特別賞の決定では、会場が一体となって東静岡地区のまちづくりを考えました。提案者と審査委員の質疑応答が活発に飛び交う審査となり、審査委員から複数の提案者に対して質問し、提案者が順番に答えていく場面もありました。こうした審査を経て、投票により、都市デザイン部門・まちを楽しむ部門の各賞を決定しました。



LIFE Streaming

(株) 竹中工務店 / 小南 嘉久 様・西松 直樹 様・松居 咲帆 様・遠藤 瑞帆 様



LIFE Streamingの概念図

新たなライフスタイルとコミュニティを 共創・共育する、市民主体のまちづくりを促す仕掛け

まちなかのパブリックスペースの中で、市民のスポーツや文化等の多様なアクティビティの流れを生み出す仕掛けにより、「非日常と日常を融合」「新しいライフスタイルとコミュニティを共創・共育」することを「LIFE Streaming」というタイトルで提案されました。また、その具体的な実現手法として4つのまちづくりの仕掛けが提案されました。

- ①Streaming PLOT (公共空間のり・デザイン) ②Streaming WALK (道路空間と交通体系のり・デザイン)
③Streaming LAB (地域価値創出のり・デザイン) ④Streaming PLATFORM (地域マネジメントのり・デザイン)

審査委員の講評 (要点)

「まちに合わせた魅力的なものをどのように生み出していくのか」という視点が考えられていました。まちづくりを促す仕掛けが4つの視点から考えられており、提案のバランスが良かったです。

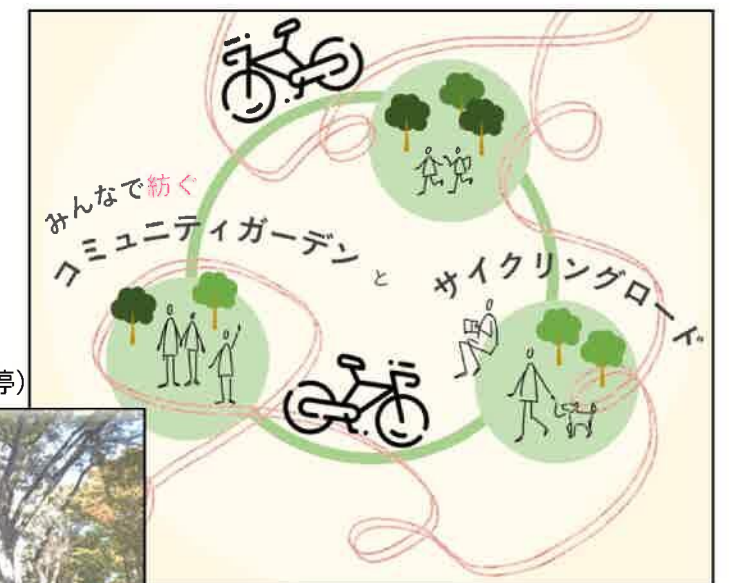
作品に対する想い (提案者インタビューより)

「非日常と日常」「建築と公共空間」「地区と周辺」が互いに寄り添うことが大切で、東静岡ではそれらの関係性をより充実させることが有効だと考え、まちにアクティビティの流れを生み出すことで新たなライフスタイルとコミュニティの循環を向上させることを考えました。また、持続可能な共創・共育を実現するためには、クラウドファンディングを介した市民のまちづくりへの参加やアクティビティを誘発するシステムとアプリケーションの導入が有効だと考えました。



みんなで紡ぐコミュニティガーデンとサイクリングロード

設備設計 / 松浦 智香 様



コミュニティガーデンのイメージ (県立美術館近くのバス停)



コミュニティガーデンとサイクリングロードの概念図

子どもたちが、夢や可能性を抱くきっかけとなるような空間の創出

「子どもたちが、夢や可能性を抱くことのできるきっかけとなるような空間」にするために、「コミュニティガーデン」を子どもたちが様々な世代と交流することができる場とし、「サイクリングロード」を子どもたちが自分自身で「選択」する経験と能力を培える場とすることが提案されました。また、近隣住民の主体的な参加や運営方法を確立してから地区外からの訪問者の利用を促すことで、包括的で不満のない発展を目指すことが提案されました。

審査委員の講評 (要点)

この地区で成功したモデルを横展開できるといった観点で、「まちを楽しむ」ことの汎用性が高い提案でした。サイクリングロードでコミュニティをつなげるという発想が良かったです。

作品に対する想い (提案者インタビューより)

様々な世代と関わるのが難しい現代で、子どもが自分と異なる世代と交流する経験が、大人になったときの糧になってほしいという想いで提案しました。また、サイクリングロードを介してコミュニティガーデンでの活動を目にして興味をもってもらうことが、今後つくられる素敵な空間(新県立中央図書館のラボラトリーなど)の活用の誘導につながるのではないかと考えました。アリーナについても、建設の過程で住民が関わる機会をつくることで、新しい場に対する住民の愛着が生まれると思います。



・都市計画マネジメント、シェアモビリティの経営実態 ・ローン・ヤロバットによる社会実験 ・フリンジスマートパーキングの整備	・長沼大橋の架け替えに伴うバイラインの整備→Streaming LOOPの実現 ・フリンジロジスティクスセンターの導入 ・未来モビリティ（エアタクシーなど）に対応したスマートパーキングの運用
ABの整備→拡張・更新、LABを活用した共同研究の実施	・東静岡地区外へのサテライト LAB の展開

ビジョン

私たちが提案するビジョンは、「住みやすいまち、人のまち、持続可能なまち、そしてスマートシティ」という4本柱で構成しています。

今日、私たちは人口減少、経済の停滞、気候変動の影響、急速な技術変化などに直面しています。これらの困難を乗り越えるために、関係者全員の声を聴き入れ、革新的かつ持続可能な解決方法を決めていく勢いのあるプロセスこそ、本市が理想的な街となるための成功の原動力となるはずです。

新幹線の利便性を活かし、東京や地方からの観光客を惹きつけ、地域の活性化と持続可能な未来を共に築きます。

住みやすいまち…

都市機能と地域の機能がバランスよく組み合わせられ、オープンスペースに明確な階層性を持たせた、交通の便が良いコンパクトなまち。

スマートシティ…

最新のテクノロジーに対応し、意図的に設計された適応性の高いまち。

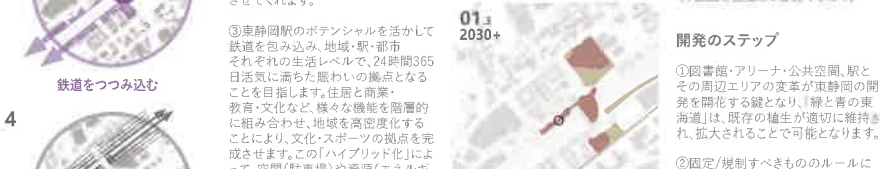
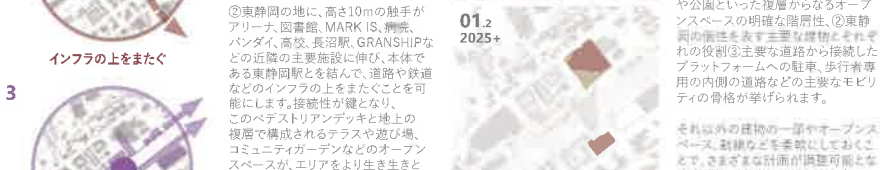
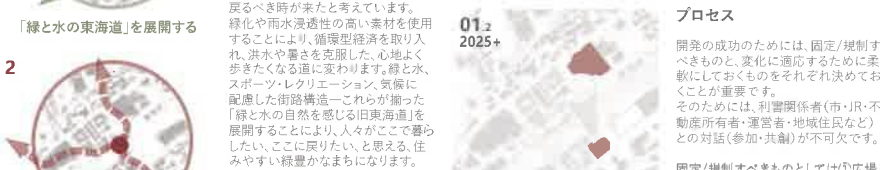
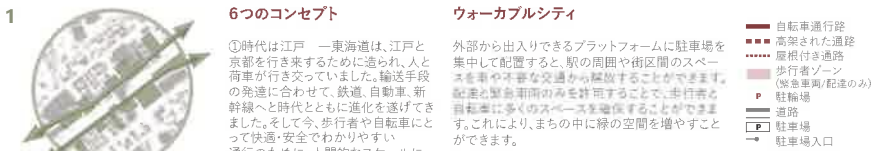
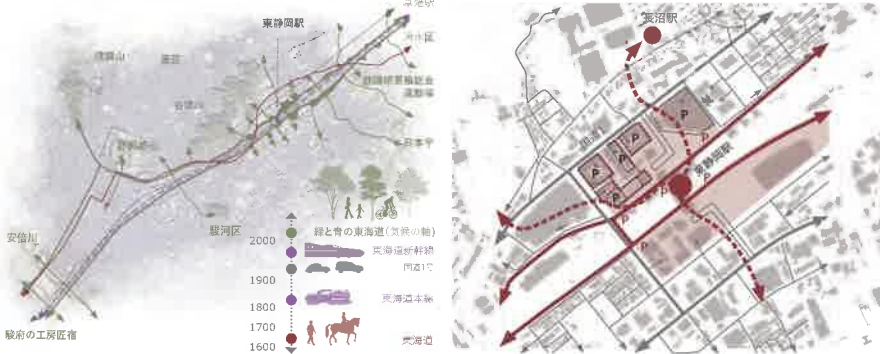
人のまち…

さまざまな年齢層の人々にとって安心・安全で、遊び心のあるまち。

持続可能なまち…

質の高い緑と水の空間を備えた気候の変化に強い循環型のまち。

コンセプト



デザイン



個性的な空間

オープンスペースは、公共的なものからプライベートなものまで、その場所に収められた可能性を最大限に活用することで、それぞれの個性的な空間にすることができます。例えば、人々の集まる北口の広場やグランシップ前の広場を維持しつつ、新しく鉄道公園、水路につながる貯水公園、住宅街の間に居心地のよい通りや小さな広場などを作ることが可能です。

居住地域

新しい東静岡の居住環境は、駅の北北に新たに5,500人の住民を創出します。この提案は、以下の面積で構成しています。

アリーナ	25,000 m ²
図書館	20,000 m ²
他の文化的機能	30,000 m ²
住居	135,000 m ²
商業・サービス・レストランなど	26,000 m ²
健康・福祉的機能	15,000 m ²
教育(インターナショナルスクール)	10,000 m ²
オフィスとこれに類する機能	65,000 m ²
スポーツ・レクリエーション・ウェルネス	14,000 m ²
ホテル・宿泊施設	25,000 m ²
合計	= 365,000 m ²

この面積と機能は、市の将来の要件に合わせて調整が可能です。

- 住居、学生寮 など
- 健康、介護サービス など
- 主要な建物(アリーナ、図書館、文化施設など)
- 商業・サービス・レストラン など
- 交通
- オフィス、ベンチャー企業、クリエイティブ産業 など
- 教育
- スポーツ、レクリエーション、ウェルネス など
- ホテル

アリーナ

新しいアリーナは、空間に浮かぶ孤立した石ではなく、ホテル、賑やかな地上階、文化的・創造的な活動がミックスした複合施設であるべきです。周囲のオープンスペースを尊重し、既存の公園の一部を生かしながら、東海道に向かって開けた新たなフロントスペースをつくることができます。アリーナの屋上では、陸上競技も可能です。大きなイベントの開催でも活気を保てるよう、文化的・創造的・芸術的な活動(teamLabなど)のために活用できる新たなアリーナを提案します。

福祉の街区

新しいクリニック、高齢者ケアセンター、保育園で構成するこのエリアは、街区の内側に小高く静かな隠れ庭園を共有している。福祉が共生する街区です。反対側にあるアリーナに適切に呼応する重要な機能です。

住宅の街区

住宅とスタートアップなどの他の機能と混ざり合っています。

教育の街区

駅前広場に面したこの街区は、交通結節の拠点としての重要な機能を持っています。東静岡が教育の拠点という特性を持っていることを鑑み、インターナショナルスクールを建設し、その上部に学生寮、アパートやオフィスを整備することを提案します。インターナショナルスクールは若者をこの街に惹きつけるでしょう。

ウェルネスの街区

内向きのこの街区は、既存の温泉を改良したもので、駅から MARK15までのペDESTリアンデッキにつながっています。温泉敷地内の掘削により、さまざまな健康維持やレクリエーション活動のための隠れた屋外スペースが設けられており、美容室などのアクティブな地上階の上に位置しています。ウェルネスホテルを配置することで、北側の住宅街区に向かった変化を生み出します。

東静岡

「緑と水が織りなす新しい東海道」子育て世代が集う、持続可能な理想都市
— a foundation stone of an exemplary city —



01 アリーナの屋上公園から東静岡駅を望む



02 ペDESTリアンデッキから気候に配慮した街路を望む

「かいゆう」のまち

I. 立地特性を活かすための「回遊」促進

・日本有数の魅力的な「まち（駿府城周辺等）」「うみ（駿河湾・清水港）」「やま（日本平・久能山・オウシズ）」の中間地点に位置し、鉄道や道路網により市内だけでなく全国からもアクセスし易い立地特性を十分に活かすため、空間的な分断の解消や交通機能の拡充により、多様な資源間の回遊性を高めることで、より多くの人々を惹きつける。

II. 機能集積を活かすための「界融」促進

・文化・芸術・スポーツ・学術をはじめとした多様な機能が集積している強みを活かすため、現在、自己完結性の高い「施設型（ハコ型）」の機能を、各々の物理的・機能的な境界を融かし、「開放型（マチ型）」へと転換することで、互いの機能が引き合い、新たな魅力・価値が創出されるようまちづくりを展開する。

III. 人口構成を活かすための「交い結う」促進

・若年層の人口割合が多い現状を活かし、かつ、全国的な少子高齢化の中でも、その活力を継続的に維持していくため、若者の挑戦を支えるような受皿や仕組みづくりを行い「若者の根付き」を促すとともに、それら若者の活躍をデコにして、子どもからシニアまで多様な世代が交流し、新たな縁が結ばれていくようなまちづくりを行う。

回遊促進

提案1-1

回遊デッキの創出
(多機能型デッキ)

【視点数番①③④】

デッキ上部
(交通+公園)

→ ① 交通機能：歩行者通路、グリーンスローモビリティ走路

→ ② 公園機能：植栽帯、休憩空間、カフェ（富士見茶屋等）

デッキ下部
(遊び+交流)

→ ③ 遊び機能：デッキの躯体を利用したアスレチック

→ ④ 交流機能：デッキを屋根とした全天候型シビックプラザ

非日常時

→ ⑤ イベント空間（主に、上記③④の空間を利用）

非常時

→ ⑥ 非常時：一時避難地（屋根のある上記④の空間を利用）

回遊促進

提案1-2

グリーンモビリティ
ネットワークの創出

【視点数番③】

駅前資源間

→ ① 回遊デッキ上を走行：グリーンスローモビリティ導入

地区資源間

→ ② 地区外周道路を走行：コミュニティバス導入（自動運転）

地域拠点間

→ ③ 駅と各拠点間を走行：既存の路線バス、シャトルバス

結節機能

→ ④ 円滑な選択+乗換え：マルチモビリティステーション設置

界融促進

提案2

マチ型機能への転換
(ハコ型からの界融)
(デッキはまちの回廊)

【視点数番①②④】

まち全体が
新たな宿場

→ ① 観光地からの良好なアクセスや、温浴施設の立地を活かし、敷地A、Cに宿泊施設を、敷地Dに仲見世型の個店街を導入

まち全体が
キャンパス
(文芸施設)

→ ② 大学・専門学校の集積や、図書館、グランシップの立地を活かし、敷地Bの一角にキャンパスビレッジ（合同学生寮+サロン）を、敷地Dに複数の大学や技術系企業の合同サテライトラボを導入

まち全体が
健康増進施設

→ ③ 計画されているアリーナや、民間のフィットネスジム、複数の医療施設の立地を活かし、デッキ上にウォーキング・ジョギングコースを、デッキ下にアスレチックコースを導入
また、調整池を、平常時はアーバンスポーツパークや多目的コートとして有効利用

交い結う促進

提案3-1

多世代共創型の
受皿+仕組みづくり

【視点数番①②④】

多世代共創の
受皿

→ ① 学 生：キャンパスビレッジ（合同学生寮+交流サロン）（敷地B）

→ ② 若年層：子育て支援型住宅、二拠点居住物件、ソーシャルアパートメント（敷地B、E※）

→ ③ シニア：駅前往来住宅（敷地E※）（※：敷地Eでの住宅整備には地区計画の変更が必要）

多世代共創の
仕組み

→ ④ 学生は、子どもに学習・語学等を教えることを条件に、低廉な賃料で④に入居が可能

→ ⑤ シニアは、普遊び教室や、子ども一時預かりサービスを提供（組織化を公共が支援）

→ ⑥ 住替え前住宅の一部を公共が借り上げ、エリマネ活動への参画を条件に若者に低廉に賃貸

提案3-2

チャレンジ誘発型の
受皿+仕組みづくり

【視点数番①②④】

チャレンジ
誘発の受皿

→ ① 敷地D屋上に導入する仲見世型個店街の一部に、チャレンジショップを確保

→ ② デッキ上の一部を、ヘブンアーティスト（選定基準を満たしたアーティスト）に開放

→ ③ デッキ下の一部に、市民・学生などが出店可能な、チャレンジブースを確保

チャレンジ
誘発の仕組み

→ ④ チャレンジショップ・チャレンジブースへの出店者は、回遊デッキの日常維持管理や地域活性化イベントへの参画を条件に、低廉な賃料で出店が可能

→ ⑤ また、広報面で、回遊デッキ接続団体（県・市・鉄道事業者他）の協力を受けられる

敷地A

・多目的アリーナ+広場

・ホテル+展望ラウンジ

敷地B

・キャンパスビレッジ

・子育て支援型住宅

・学生×子ども交流施設
(学生が子どもたちに
学習・語学等を教える)

敷地C

・ホテル+人の広場

敷地D

・屋上：仲見世型個店街
(一部にチャレンジショップ)

・下階：合同サテライト等
(ファブラボ、ワークスペース)

敷地E

・カフェ+住替え+二拠点居住

・ソーシャルアパートメント

・広場（古代東海道遺構）

凡 例

主な施設

文化・教育施設

スポーツ施設

商業施設

温浴・健康施設

展望ラウンジ

医療施設

ものづくり・製造施設

提案箇所

主な建築建物

計画・建築施設

回遊デッキ
(ガラス/木造)

コミュニティ

主要道路

主要バスルート

主要バスルート

主要バスルート

敷地Bのイメージ

・大学・専門学校等が集積する榎木駅方面からの“ゲート”に相応しい空間形成+機能導入
・沿道では、にぎわい+みどりの連続性確保や、歩行者空間+グリーンモビリティ空間を拡充



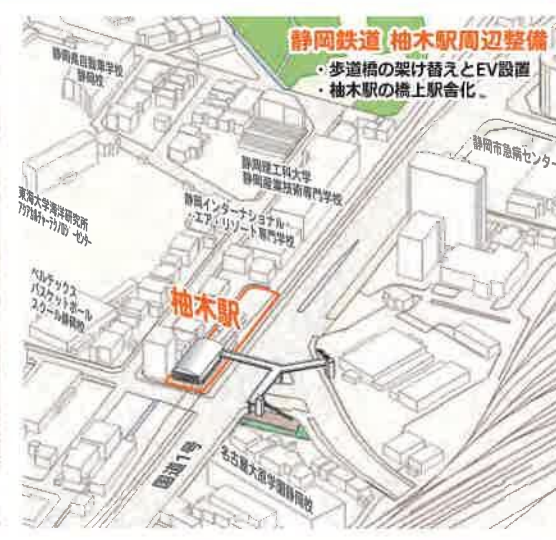
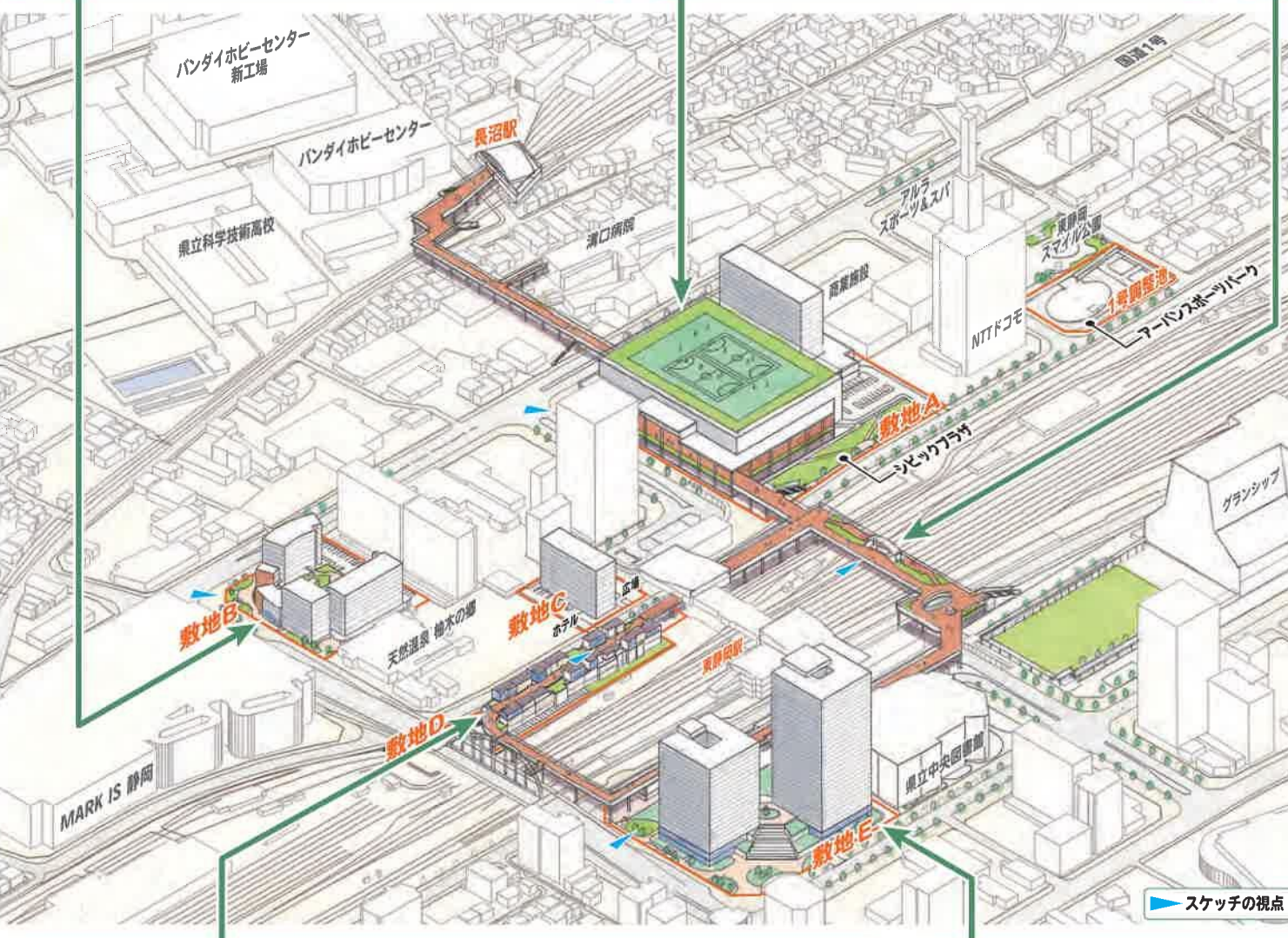
敷地Aのイメージ

・広域からの集客力強化に向けて、多目的ホールにホテル+商業を併設
・市民活動の殿堂とするため、多様なシーンで活用可能な性格の異なる3つのシビックプラザを確保
→ アリーナ：屋内型
→ デッキ下：半屋内型
→ 敷地南側：屋外型



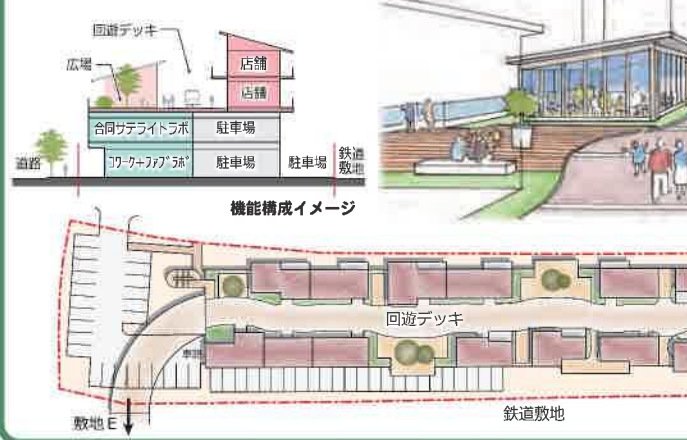
「富士見デッキ」のイメージ

・まちのシンボル空間として、また、来訪者へのおもてなし空間として、回遊デッキ上に、富士山や新幹線を眺めながら静岡茶を堪能できる富士見デッキ・富士見茶屋を設置
・本格的な「茶の湯」を体験できるイベントを定期的に開催



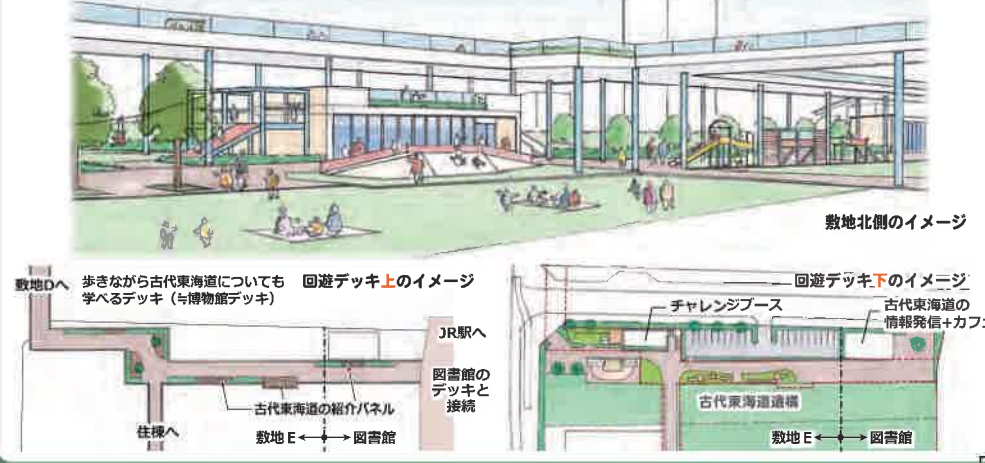
敷地Dのイメージ

・駅直近であり、温浴施設や大規模商業施設、谷津山への導入部に位置する敷地Dでは、その道程が楽しくなるような、仲見世型の個店街を、回遊デッキと一体的に形成（なお、個店街の一部には、チャレンジショップを導入）
・また、下階には、学校集積地や、キャンパスビレッジ（敷地B）との近接性を背景に、複数の大学や地域の技術系企業による合同サテライトラボを導入



敷地Eのイメージ

・敷地北側の多世代交流広場と多機能型デッキ
→ デッキ上：歩きながら古代東海道について学べる空間
→ デッキ下：フィールドアスレックススペース、子どもの遊び場
市民・学生などが出店可能なチャレンジブース



◆ 基本的な考え方

各関係者の思い・施設・組織を、目線揃えてあるべき方向へと継続的に導くため、「物心両面での基軸」として回遊デッキを開発者が協働で考え、築き、使っていく。

◆ プロセス案

フィードバック

全体計画

個別計画

全体運営

個別運営

① 回遊デッキ運営会議

② グリーンモビリティ運営会議

③ 各施設の運営会議

④ 各機能連携+仕組みづくり会議

◆ 実現化に向けたプロセス・スキーム

① 回遊デッキの整備・運営

② グリーンモビリティの導入・運営

③ 各施設の整備・運営

④ 各機能連携+仕組みづくり

青春を育むまち

小さな活動を耕し、世代を超えて愛され、記憶に残りつづけるまち 東静岡

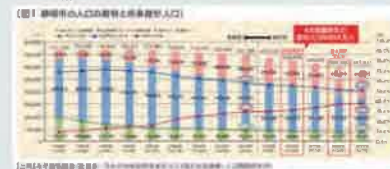
提案した視点番号

①②③④

1 | 東静岡のポテンシャルと課題

- 1. [若者・子ども&文化・スポーツ] 若者にとって魅力的なまち & 草の根の活動の場やその活動を醸成する仕組みの必要性**
市全体として人口が減少しており、特に大学進学に伴う若者の流出が目立つ。そのため、新たに整備予定のアリーナ等の拠点の機能を最大化し、若者がまちに留まることを選取できる環境（若者を中心とした楽しむ、挑戦する、活躍できる場）をつくり出す必要がある。また、大学コンソーシアムや文化関連施設が連携するムセオン静岡等の既存の組織間連携はあるものの、草の根の活動の場やその活動を醸成する仕組みが十分に整っていない。
- 2. [都市交通] 十分な交通結節点機能・南北動線（特に歩行者の南北動線）の必要性**
多くの高校・大学が周辺に立地するが、静岡駅からのアクセスが中心であり、交通結節点として十分に機能できていない。また、鉄道や国道1号線等、利便性の高い交通が東西に通っているが、巨大な緑地空間によりまちが南北に分断されていることから、南北動線、特に歩行者の南北動線が十分に整備されていない。
- 3. [土地利用] アリーナ等の賑わいを波及するような公共空間の整備 & 次世代の交通体系を踏まえたロードサイド空間へ更新する必要性**
新たにアリーナ等の人の集まる拠点の整備が進行しているものの、駅周辺は駐車場や空き地が多く、その動線を最大化する公共空間（歩行者のための空間等）が十分に整備されていない。また、各交通モードの仲介動線を整理した際の資料によれば、自転車は小規模バスや自転車等々の次世代交通へ移行することが想定されており、ロードサイド店舗は、1店舗1駐車場の業態からの変化が求められる。このことから、駅周辺のロードサイド店舗は従来の交通動線に異変に対応する必要がある。

■人口減少（出典：第四次静岡市総合計画）



2 | コンセプトと4つの提案 「青春を育むまち」

若者の課題と青春の重要性

現代は情報過多時代と言われ、ソーシャルメディアの普及によって個人が入手可能な情報は多い。しかし現代の若者にとって、メディアの情報のみでは、明確に自分のやりたいことを実現する道筋をみることが難しい。それは、リアルな社会との接点機会や体験を通じた成長によって少しずつみえるものである。我々は、その解決手法の1つが「青春」であり、まちに「青春」が存在し、見える・体験できる・挑戦できることが重要と考える。加えて、「青春」は若者だけでなく、友人や頼れる先輩、信頼できる両親や祖父母等、多くの支えが存在して初めて成り立つものと考えられる。

まちの将来像：青春を育むまち

以上から本提案では、まちの新たな特徴となる文化やスポーツを通して、若者が周囲の支えのもと、楽しみ、挑戦し、活躍する「青春」を育むまちを目指すことを提案する。

- 【青春を育むまちの要素】
- ・自己実現の道筋がみえるまち
- ・社会との接点機会にあふれるまち
- ・体験を通じた成長を支えるまち

この要素を実現するため、

1. まちに住む人が「子ども～学生～社会人～親・高齢者」と時間を経るなかで、青春との関わり方も「fan～member～core～support」と変化し、楽しみながら支える個人へと変化する流れをつくる（右側）。
2. その流れを支える基盤（青春のインフラストラクチャーと呼ぶ）を整備に投資することにより、若者や若者を支える人にとって、魅力的なまちの実現を目指す。

提案①：青春のインフラストラクチャー

青春のインフラストラクチャーによる場とその活動イメージは、大きく3つの階層に分けられる。第一層は、アリーナやグラウンド等の「多くの人の前で活動する場」であり、活動者（core）が「最も大きなハレの場」として利用する。第二層は、広場等の「少し大きな人前で活動する場」であり、活動者（member）が大会等の「ハレの場」として利用する。

第三層は、まちかど広場等の「小さな人前に出ない活動の場」であり、活動者（fan）が日常の練習等の「ケの場」として利用する。また、こうした小さな活動場を支えるような大きなインフラストラクチャーとして、地域主体の組織及び青春インフラの管理・運営を行う他、教育機関や活動者、市や民間企業、地域住民とのネットワークを構築による協力・連携を図る。

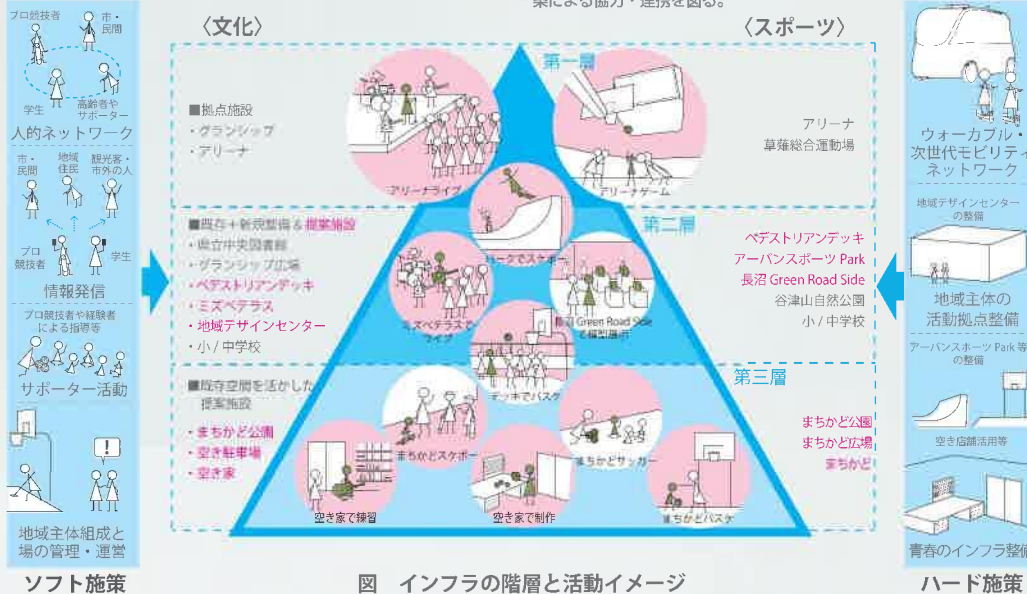


図 インフラの階層と活動イメージ

提案②：人のための駅前空間を創出する

1. 駅前を居心地のよいグリーンな空間とし、谷津山公園から日本平周辺へと続くグリーンラインを形成する
2. 駅前を「青春のハレの場」とし、青春のインフラストラクチャー（第一層・第二層）を点在させる（国道以北の長沼エリア及び池田街道以南を「青春のケの場」とする）
3. ロードサイドから駅前拠点及び駅までの交通ネットワークを再構築（駐車場集約&既存の交通広場を廃止し、駐車場を交通 HUB することで、駅前にウォークアブルエリアを創出）

エコロジー

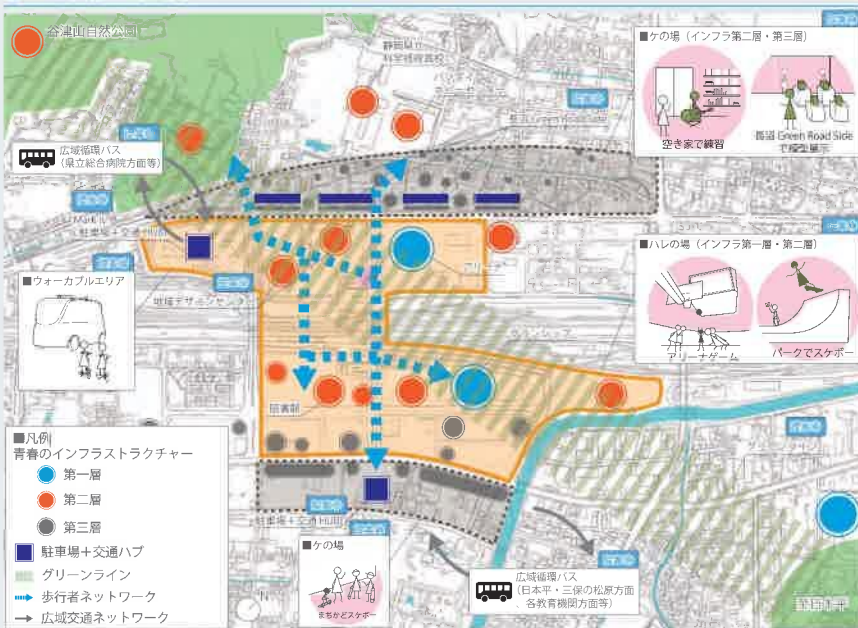
青春のインフラ

ウォークアブルを実現する交通体系

日本平周辺（各交通ハブ）



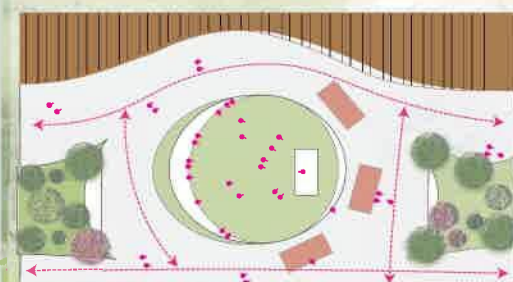
3 | マスタープラン



青春が育まれる未来の東静岡

A ハレの舞台としてみんなが憧れ愛される広場

ペDESTリアンデッキの一等地には、文化的活動やスポーツのハレの舞台となる広場を創出。若者にとってはあこがれの地、大人にとっては懐かしい場所として、地域に愛され、記憶に残り続ける場として継承される。



D リズミカルな空間の中でハレとケが介在する青春空間

新しい図書館の隣接的な建築に合わせ、デッキ・階段空間にも連続するみどり居心地のよいたまり場を創出。広場は、大規模なイベント等のハレの目的活動が生まれるような大きな空間と、小さな空間を設ける。デッキ下の空間は1人または少人数で練習できる、青春を育むケの活動が生まれる。



提案③：青春の活動を醸成する拠点をつくる

fan がつくる小さな活動から member・core がつくる大きな活動を醸成するため、地域主体の拠点となる「地域デザインセンター」を整備する。地域デザインセンターでは、学生が主体となり、青春のインフラストラクチャーの管理・運営を行う他、地域が抱える課題に対してアクションを起こす拠点とする。また、アクションの企画・提案に際しては、自治体の他、民間事業者（アリーナ事業者等）、地域関係者等の地域パートナーと地域の課題に取り組む。

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

練習・表現・競技する場を求める活動者

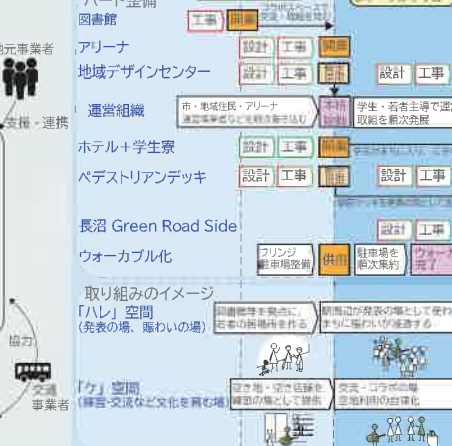
提案④：人のためのロードサイドへ更新する

将来的における交通体系の変化（自動車→小型バスや自動運転等）を踏まえ、
・駐車場及びロードサイド店舗を縮小集約する
・施設は1階に駐車場、2階に既存のロードサイド店舗や青春インフラストラクチャー（第二層・第三層）を配置する
・創出された空き地は、ロードサイド店舗の事業者等が人の滞留の場として活用し、長時間過ごすことによる収益増を目指す



4 | 事業スキーム

- ・学生や若者、民間事業者、市の3者で「地域デザインセンター」を設立し、エリアマネジメントを行う。
- ・駐車場料金や、キッチンカー、イベント等の使用料を原資として、広場やデッキの維持管理、空き地の賃借、イベント実施、ニューモビリティの維持管理運営（地域の交通事業者と協力）などの活動を広げる。
- ・地域住民とのイベントの共創や、ファニチャなど景観デザインを共に検討し、学生や若者がイニシアチブを持ってまちづくりを推進する。
- ・ペDESTリアンデッキはアリーナ運営者やホテル事業者等が整備費を一部負担し、静岡市の負担を最小限とする。



第1期（2024～2035）

第2期（2035～2050）

第3期（2050～）

第4期（2050～）

第5期（2050～）

第6期（2050～）

第7期（2050～）

第8期（2050～）

第9期（2050～）

第10期（2050～）

第11期（2050～）

第12期（2050～）

第13期（2050～）

第14期（2050～）

第15期（2050～）

第16期（2050～）

第17期（2050～）

第18期（2050～）

第19期（2050～）

第20期（2050～）

第21期（2050～）

第22期（2050～）

第23期（2050～）

第24期（2050～）

第25期（2050～）

第26期（2050～）

第27期（2050～）

第28期（2050～）

第29期（2050～）

第30期（2050～）

第31期（2050～）

第32期（2050～）

第33期（2050～）

第34期（2050～）

第35期（2050～）

第36期（2050～）

第37期（2050～）

第38期（2050～）

第39期（2050～）

第40期（2050～）

第41期（2050～）

第42期（2050～）

第43期（2050～）

第44期（2050～）

第45期（2050～）

第46期（2050～）

第47期（2050～）

第48期（2050～）

第49期（2050～）

第50期（2050～）

第51期（2050～）

第52期（2050～）

第53期（2050～）

第54期（2050～）

第55期（2050～）

第56期（2050～）

第57期（2050～）

第58期（2050～）

第59期（2050～）

第60期（2050～）

第61期（2050～）

第62期（2050～）

第63期（2050～）

第64期（2050～）

第65期（2050～）

第66期（2050～）

第67期（2050～）

第68期（2050～）

第69期（2050～）

第70期（2050～）

第71期（2050～）

第72期（2050～）

第73期（2050～）

第74期（2050～）

第75期（2050～）

第76期（2050～）

第77期（2050～）

第78期（2050～）

第79期（2050～）

第80期（2050～）

第81期（2050～）

第82期（2050～）

第83期（2050～）

第84期（2050～）

第85期（2050～）

第86期（2050～）

第87期（2050～）

第88期（2050～）

第89期（2050～）

第90期（2050～）

第91期（2050～）

第92期（2050～）

第93期（2050～）

第94期（2050～）

第95期（2050～）

第96期（2050～）

第97期（2050～）

第98期（2050～）

第99期（2050～）

第100期（2050～）

第101期（2050～）

第102期（2050～）

第103期（2050～）

第104期（2050～）

第105期（2050～）

第106期（2050～）

</



Living in New Society



1 東静岡地区の位置づけ

①新たなまちを体現できる素地

総合計画において、静岡駅周辺は鎌倉時代から続く文化の継承地として、清水駅周辺は日本有数の漁獲量を誇る港町としてまちの方針が定められているが、**東静岡地区は歴史的にも地理的にも文脈の薄いまだ新しいまちである。**

また静岡駅から一駅という高い交通利便性やゆとりのある街並みから、今後の開発によって賑わいを生み出すポテンシャルは高く、**東静岡は新しい文化・体験を形成しながら発展する先進的なまちの在り方が望まれている。**

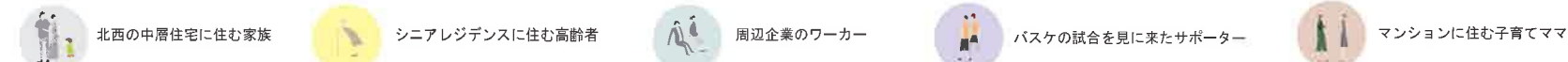
②ポテンシャルと課題

当該地区は、かつての国鉄貨物駅の跡地からの開発途上にあるため駅周りにも**未利用地が多い。**広域的には、玩具メーカーやインフラ企業、東名高速道路沿いにはEC拠点があるなど、**産業や物流も盛んなエリアである。**さらに、土地区画整理事業によるゆとりある街路空間と、谷津山や日本平、富士山と自然にも恵まれ、**居心地の良い住環境が整備されている。**

一方、北から国道1号、JR線、南幹線と道路や線路によって街区は分断されており、地面レベルでの徒歩による周遊は難しい状況である。



4 まちの日常の風景



※画像の作成にはAIを活用しています

Living in New Society

まちに関わる住民や企業、法人、研究者等の様々な人が、アリーナ・図書館や、デッキ・広場等の社会基盤を「共有資産」として捉え、皆で創り、維持しながらそれぞれの居場所をつくる。そして、その居場所が東静岡のまちの魅力となり、新たな機能が集まって成長する、新しいまちのモデルを提案する。この好循環を生み出す新しい社会に暮らすこと、それが「Living in New Society」である。

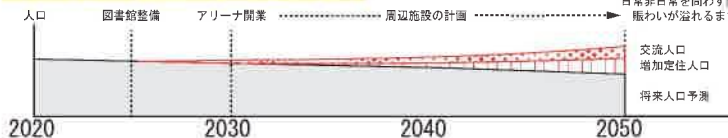
2 まちづくりの方向性

①交流人口の増加に向けた付帯的な施設と社会基盤の整備

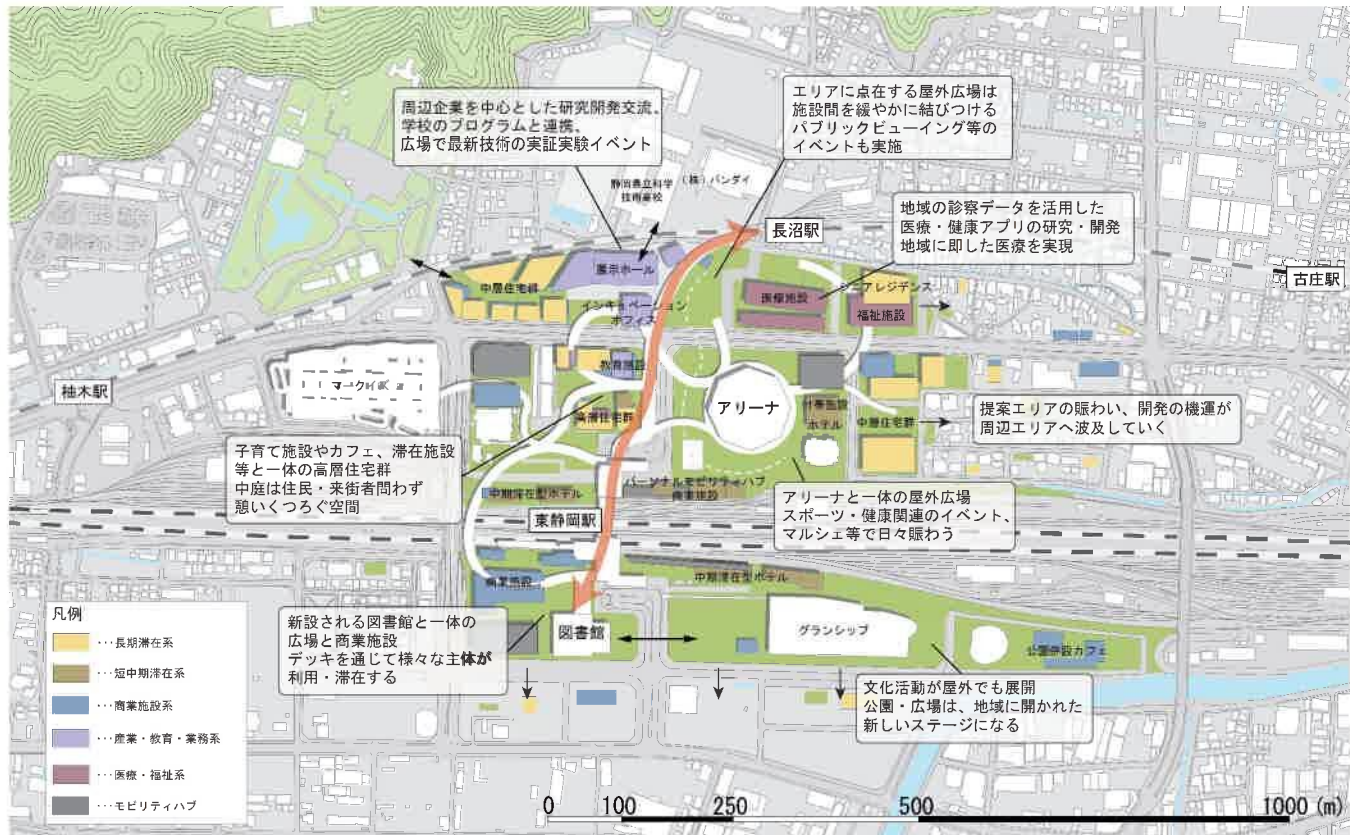
- ・集客力の高いアリーナや図書館の整備により交流人口は増えるが、定常的な賑わいに結びつけていくためには、**段階的にさらなる付帯的な施設を整備する必要がある。**
- (例：広場、ホテル（長期・短中期）、商業施設、さらにスポーツ・文化と親和性の高い医療や研究施設等）
- ・交流人口が増えれば、それを受け止める社会基盤が必要となる。特に長沼駅周辺は道幅も狭く、現況のままでは日常にも混乱を与えかねない。交流人口の増加を見越したゆとりある社会基盤の整備が求められる。

②定住人口の増加に向けた住宅整備とまちを支える仕組みづくり

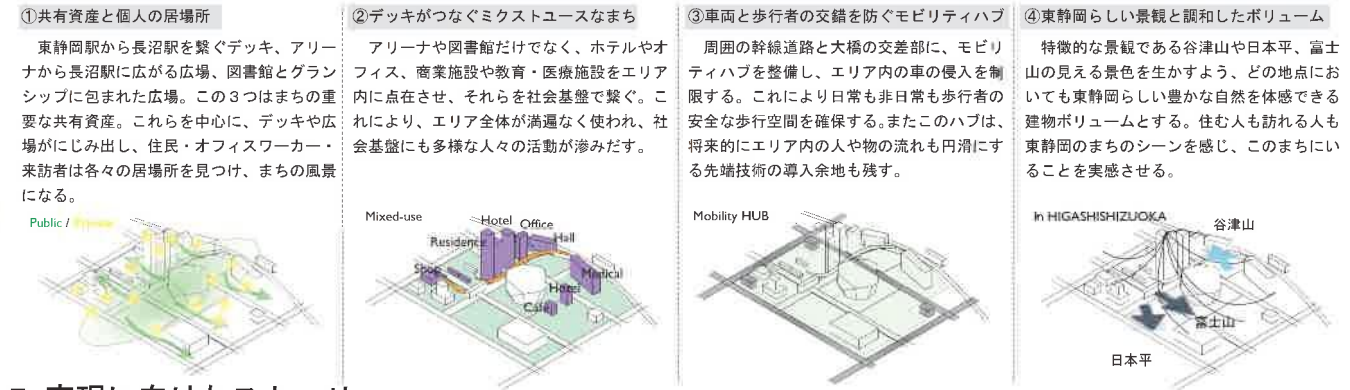
- ・交流人口の増加により生まれる一時的な賑わいを持続的なものにするため、市と協同してまちづくりを推進するパートナーを選定する。あらゆる世代・ライフスタイルを受け止め、**日常的に人々の交流が生む住宅を整備し、定住人口の増加を図る。**
- ・デッキや広場は日常にも豊かさをもたらす社会基盤となり、ここで暮らす人々も共有資産として維持管理に関わるようになる。賑わいと暮らしによる管理の循環により、まちは時間をかけて育まれ、**日常・非日常に関わらず人々がまちを満遍なく使う風景が東静岡の魅力となる。**



3 全体構想案



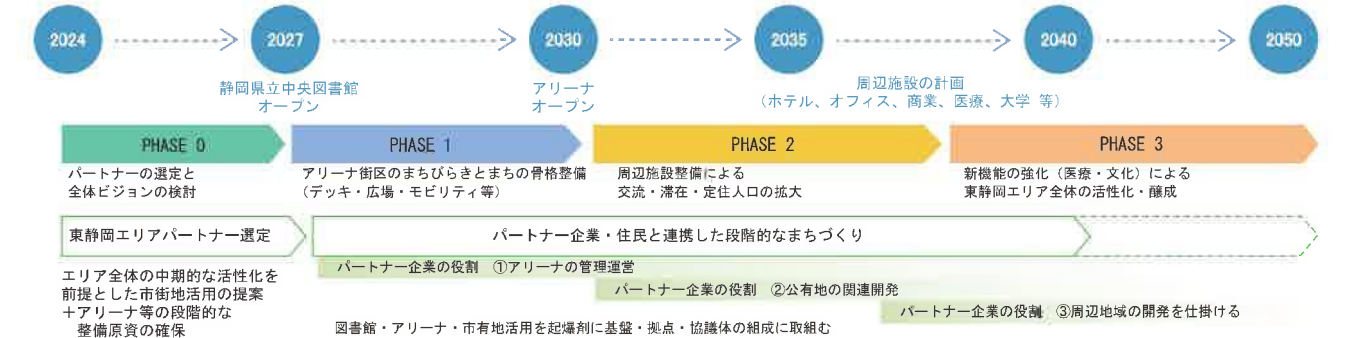
計画手法



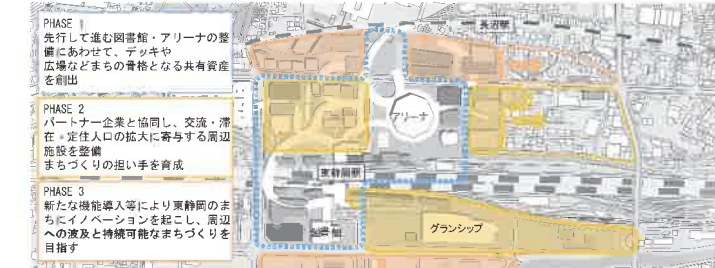
5 実現に向けたストーリー

多様な人々が交流し、豊かに暮らすまちの実現に向け、市と協同してまちづくりを推進する開発力・資金力等に優れたまちづくりパートナーを定める。図書館、アリーナの整備にあわせてデッキや屋外広場の整備を進めるとともに、まちづくりパートナーと協同して交流人口・定住人口の増加、それを受け止める十分な社会基盤、賑わいを創出する空間と仕組みの実現に向けた取組みを段階的に進める。また、各施設やまちの共有資産となる広場等を含めた管理運営を行う組織を組織し、住民や周辺企業も参画する一丸となった持続可能なまちづくりを実現する。

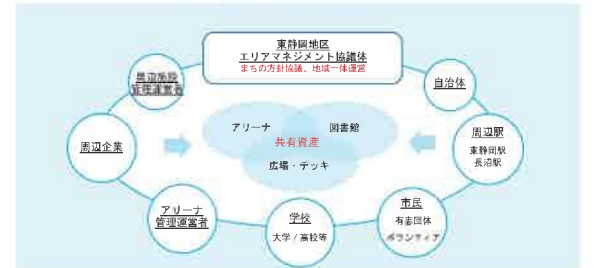
プロセス



段階的整備のイメージ



管理運営体制のイメージ



市が令和5年第5回定例会に提案の中で、**施設整備費の採算性は取れない**とされていますが、**周辺のエリアを大きく、これはエリアとの差別化は必須です**。都市機能を充実させて便便で住みやすいまちづくを進めるとともに、大都市とは異なる多様なまちの個性を生み出すことが重要です。そのために、エリアのより大きな施設を整備するだけでなく、まちなかに**小さな拠点を整備し、そこを結ぶ回遊性を高める**必要があります。

下記の通り地質や地形が多様であり、開発適地と不適地が入り混じっています。また、静岡ならではの自然環境に加えて、気候は温暖で過ごしやすいという特徴があります。

〈過去の地層を移す地形〉	〈表層地質〉	〈地形〉	〈植生自然度〉	〈富士山頂からの可視領域〉
縄文時代には現在の麻機地域までが深い入り江になっていました。また日本の丘陵地が隆起し、その後麻機湾が消失し、現在の地形となりました。	表層地質が多様に分布しています。砂（透水層）と泥（不透水層）の境では湧水が発生し、地下水の高いシルトや砂層は液状化の危険性があります。	扇状地、三角洲、背背湾などが展開しています。東静岡駅周辺は背背湾地が広がり、農業の適地ですが、水はけが悪く相対的に建屋に不向きです。	エリア南辺には、谷津山、庵原山地、麻機沼、日本平という豊かな自然が広がっています。青から赤になるにつれて植生の自然の重要性が高いです。	剣ヶ峰からの可視領域がエリア全体に広がっています。約50kmの距離で、物などの遮断物がないのは富士山をめられるポテンシャルがあります。
— 古代東海道推定ライン	■ 砂 ■ 泥 ■ シルト ■ 礫	■ 保全要度: 低 ■ ■ ■ ■ ■ 高	■ 自然度: 低 ■ ■ ■ ■ ■ 高	■ 可視領域

自然環境の形成過程に起因して、東靜岡には東吉方面に伸びる古代東海道を含めた交通軸が集積してきました。人が歩き、出会い、文化を生んできた一方で、水はけの悪い土地であり土地利用が進まず大規模な操車場がありました。近年は、大坂環状線が通る県道が都市構造、景観になりつつあります。

〈麻機沼と利用しづらぬ地質〉

七ヶ家町の浸水被害を受けた麻機の様子。
放水路や遊水地の建設によって開発が可能になった。

〈あたらしい大きなまち〉

静岡の副都心として再開発の大スケールの建物や区画による新たなまちができています。

出典：記念誌「大谷川治水史」

山典：グランシップHP

現代の日本の都市や集落は「自然の変」と「土地利用の変」の2つの軸で理解できると考えます。縮退の時代における都市間競争を勝ち抜くためには、右記のいずれかの地域域性に向けて地域力しさを磨いていく必要があります。対象地のポテンシャルや動向から第4象限を目指すべきと考えます。

土地利用の第4象限

自然変

社会変

農村

大都市

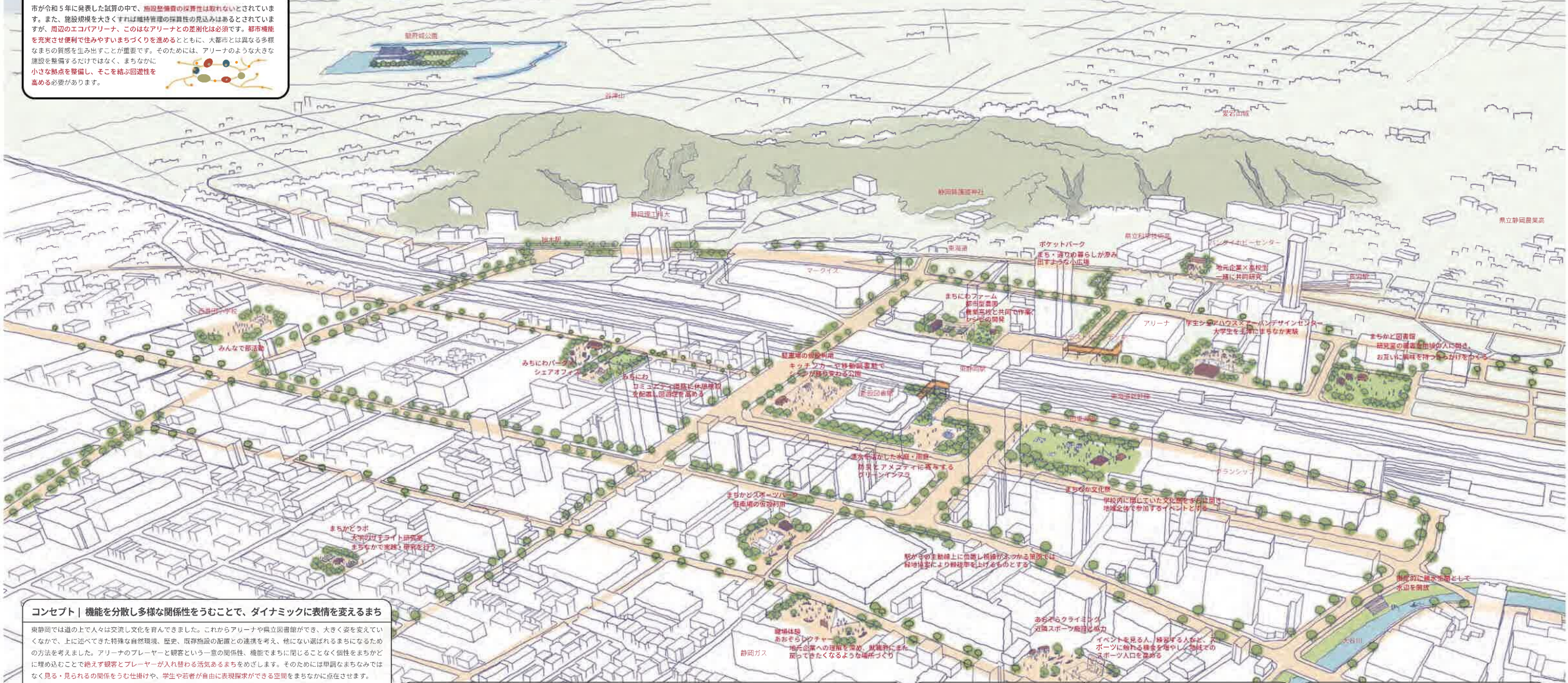
自然型地方都市

文化型地方都市

都市間競争

〈静岡市の人口動態の現状〉

- ・移住者の輸入人口が多い
- ・就学・就職による転出が多い → 転入を転出が上回る
- ・就学・就職の転出は減らさない → U/I/J ターンを増やす必要
- ・1 ターンが多い → 外人に魅力力
- ・U ターンが少ない → 転出前の若者にとって魅力でない



泉東園では道の上の人々とは交流し文化を育んできました。これからアリーナや県立図書館ができて、大きく姿を変えていくなかで、上述してきた特殊な自然環境、歴史、既存施設の配置との連携を考え、他にない選ばれる場所になるための方法を考えました。アリーナのプレーヤーと観客が同一意の関係性、機能でまじり合うことなく個性をまじりあひに保ち込むことで絶えず観客とプレーヤーが入れ替わる活気ある空間をめざします。またには単調なまちなみではなく、くまの・見れるもの・観るものがうけ掛けや、学生や若者が自由に表現活動ができる空間を積極的に存在させます。

[illegible]

本コンペの重点を下記の通り整理しました。周辺の大学や高校、他地城大学のまわづりに関わる分野の研究室を研究室単位でまちの低層部分に挿入します。学生は現地の生のデータや声にアクセスでき、地域には常に若者の姿が現れます。研究室以外にもシェアハウスやスリリー利用者の宿泊、地域の飲食店や食堂代わりに使ったりした相乗効果を狙います。また、こうした「まちがどうなる」の成果の発表会として「まちなか文化祭」を行います。広域的な集客イベントではなく、住民が地域のことを知り、愛着を持つ機縁としてまちの非住居の姿を生み出しています。長期的にはルールやガイドラインを作りながら地権者を牽制していくことに意図しています。

コミュニティの vision

視点① 住民・子ども

A: 祝祭性の創出

まちに関する活動をまち全体でつぎつぎとつづける機会
住民が地域のことを理解し愛着を深める日

コミュニティの 日常

視点② 新たな価値づくり

B: 界陽性の創出

視点③ 交通・歩きやすさ

C: 回遊性の創出

視点④ 土地利用・空間づくり

D: まちの土台・ルール作り

B: まちかどラボ

- ・ サテライトラボ
- ・ 学生シェアハウス
- ・ 食卓・飲食店
- ・ 焼通 / サウナ

C: 水と縁のコリドー

- ・ 自転車道
- ・ デッキ
- ・ 階段

・ 一階レベルの機能誘導

・ 公園空間の整備

・ 沿道の緑化 / 緑地協定

用途地域は駅を中心に商業、工業地域、住居地域と広がりますが、現在の土地利用も概ね同様です。旧街道や線路による東西の軸が強く、北側にはアリーナやマークイズなどのにぎわい・交流関連の施設、南側は県立図書館や高層マンションが並び、教育や文化の拠点が並びます。これらの目的地が駅の南北で偏りがなく、機能を南北で分散させることで、様々な目的を持つ人々の様々な移動が生れ、そこにもちの交流が生れます。方針A～Cの関係性を示します。

[illegible]

図解：まちのランドスケープ2006

● 愛着を醸成するのは、多様な目的とまちへの関わり

愛着を醸成するのは、多様な目的を許容し、無目的でも滞在できる機能・空間(都市構造)とまちへの関心、関わりを作るコミュニティである。

静岡市が都市間競争で生き残るため、都心回廊の受け皿となるエリアに愛着を感じるまちな形成を目指す。

多目的性・複目的性 → **まちへの関わり** → **愛着の形成**

多様な興味・目的をもった行動。目的がなくとも滞在できる環境

誰もがまちを楽しみ、試行錯誤できる環境

東静岡らしい、愛着の形成

提案の方針

- Point① 移動円滑化に資する交通機能の強化
回遊性を高め、ヒト・モノ・コトをつなぐ
- Point② ヒューマンスケールをつくる土地利用
ヒューマンスケールで楽しむ環境を創出
- Point③ まちづくりの機運醸成
交流促進で市民・企業・来訪者等の居場所づくり
- Point④ 移動円滑化に資する交通機能の強化
回遊性を高め、ヒト・モノ・コトをつなぐ



東静岡の土地が紡いできた歴史を、
新しい時代へと紡いでいく
コミュニティガーデンとサイクリングロード

南口の新県立中央図書館と、北口のアリーナの完成に伴い、
東静岡地域外や県外からの訪問者の増加が予想されます。
近隣住民のみではなく、住民以外の訪問者にとっても親しみやすく、
気軽に参加・利用することができる、空間を提案します。

コミュニティガーデン

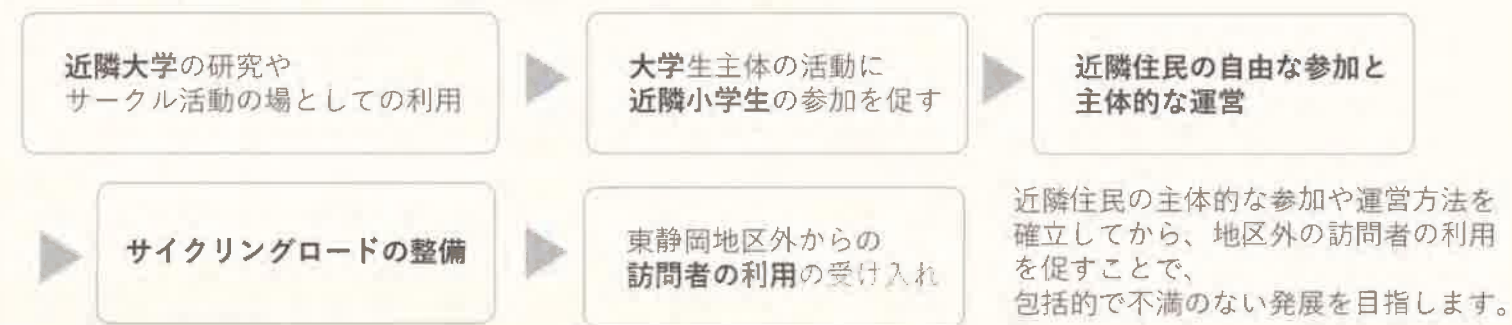
住民主体で、発展・運営・管理を行うことで行政任せではない、「主体性のあるコミュニティガーデン」を目指します。低未利用空地や既存公園の一部を活用し、各コミュニティガーデンごとに、特定の用途を定めずに、ガーデン利用者が主体となって運営方針を決めていくことで、それぞれのコミュニティガーデンごとに、独自の特色やアイデンティティをもたらすことのできる空間を提案します。

サイクリングロード

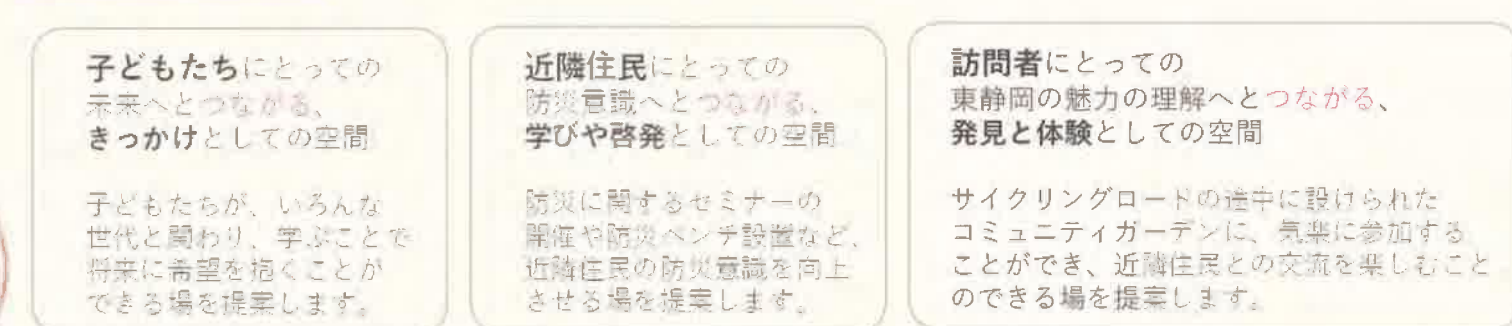
東静岡が目指す、「場の力を活かした」まちの活性化を助長することを目指します。空き地や既存公園内に設けられたコミュニティガーデンと、各施設（図書館や美術館など）をつなぐように設置します。また、レンタルサイクルポートをコミュニティガーデン内や、サイクリングロード上に設けることで、近隣住民だけでなく、東静岡地区外から訪れた人々が気軽に利用できるよう計画します。

※視点番号（募集要項P4より）：①②③④

コミュニティガーデンとサイクリングロードの発展イメージ



コミュニティガーデンの活用イメージ



ノマド学習からはじまる若者の関わりしろ

静岡英和学院大学 人間社会学部 人間社会学科3年 青島愛花

イメージ図 (ChatGPT)



提案内容

学生が留まる場所を作ること、 東静岡を「居場所」にする

新図書館内に学生が電源とWi-Fiを自由に利用しながら作業できるスペースを立ち上げ、通学中に利用できるサードプレイスとして周辺大学学生の利用をねらいとする。一般的なコワーキングスペース的な利用を可能とする一方で主目的とはせず、他大学生や静岡在住の社会人と交流する機会を日常的に設ける。それにより、最終的には東静岡を「通り過ぎる場所」ではなく「在学中・卒業後の居場所」として見る学生を増やす。

期待する効果

「学生の居場所」として広く認知されるような場を現在の東静岡には無い規模でつくること、通学という形で地域に関わっている学生と、学生との関わりを作りたい企業・地域団体との繋がりやそこから端を発するイベントやプロジェクトの基盤とする。

電源やフリーWi-Fiなど、学生にとっての機能的な利用価値を強めることで図書館での学びや地域活動への意欲の如何をとわず多くの学生が集まる場として成立させる。日常的な利用を通して、まずは学生側が東静岡を「自分の居場所」として認識するきっかけとする。

現状地域に存在している「学生の関わりしろ」に関する情報の集積地としても機能することで、情報が学生層に伝わらない課題を解決する。

スペースの活用方法

- ・ 企業と学生のコラボプロジェクト
- ・ 学生が地域活動の発案側としてテーマを設定し外部にプレゼン、フィードバックを受ける機会を作る
- ・ インターンシップやイベント運営等、情報を自由に閲覧して発信元と関わりを得ることが可能なシステム
- ・ 就職活動中の大学生と地方在住の若手社会人による座談会
- ・ 学生プロジェクトを支援する企業スポンサーシップ
- ・ 地域イベントの企画運営ワークショップ
- ・ 図書館のリソースを活かしたビジネススキル講座

マークイズ静岡が寄与する東静岡のまちづくり

- ・東静岡が目指す「共創」をスピーディに促進するため既存施設の有効活用
- ・約380万人／年が来館する大型商業施設としての、情報発信と市民活動のハブ役割
- ・天候に左右されないイベント空間の提供

提案した視点番号：①・②・③・④



マークイズ静岡がお手伝いできること

- 地域のつながり強化をめざすイベント実施
- 「まちを楽しむ」小さな取り組みを受け止める空間の提供
 - ・自治体、公的機関との連携
 - ・学生が学んだことを披露する機会の提供
 - ・市民が「気軽に」「誰でも」活発に文化に触れる機会の提供
- 東静岡エリア情報（市内含む）横串しの情報発信拠点の設置
 - ・図書館・アリーナのオープン前（ティザー期）の告知協力及び機運の醸成協力
- 静岡市（行政・民間）のSDGs取組協力
- 自然災害時の協力

公共的空間への提案

- イルミネーション装飾・映えスポットの設置（ペDESTリアンデッキ他）
- プロジェクションマッピングの上映（マークイズ静岡・グランシップ他）
- クライミングウォールの設置、パルクール等のイベント実施（グランシップ・グランシップ公園）
- ファミリーが楽しめる要素の拡充（東静岡スマイル公園）
- 周辺移動を楽しむ移動手段と貸出拠点の整備（ハルクル・LUUP等のシェアサイクル・電動キックボード）

その他取り組み提案

- 世界に誇る地場産業「プラモデル」をBANDAI・タミヤ等と連携した魅力発信
- 健康増進を目的としたモールウォーキング（ウェルビーイング）
- 『子育てのしやすさ』視点で保育施設の設置や子育ての悩みを相談できるサービスの充実
- シルバー人材の積極的雇用
- 周辺施設利用時における駐車スペースの有効利用化

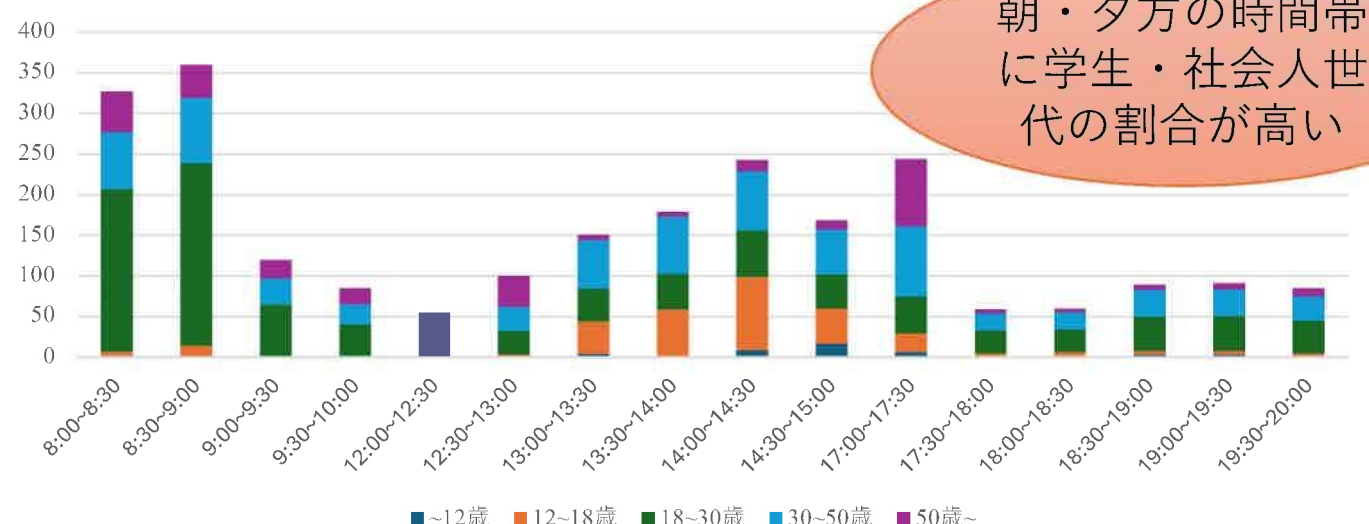
グランシップ前芝生公園を活用した「おかえりマルシェ」の開催 ～公園×商業施設の実現に向けた実証実験～

<対応する東静岡地区の街作りのテーマ>

②若者や子どもが夢や希望を持てるまちへの転換 ④多様な人々が訪れたくなる魅力的な空間づくり

1. 提案背景

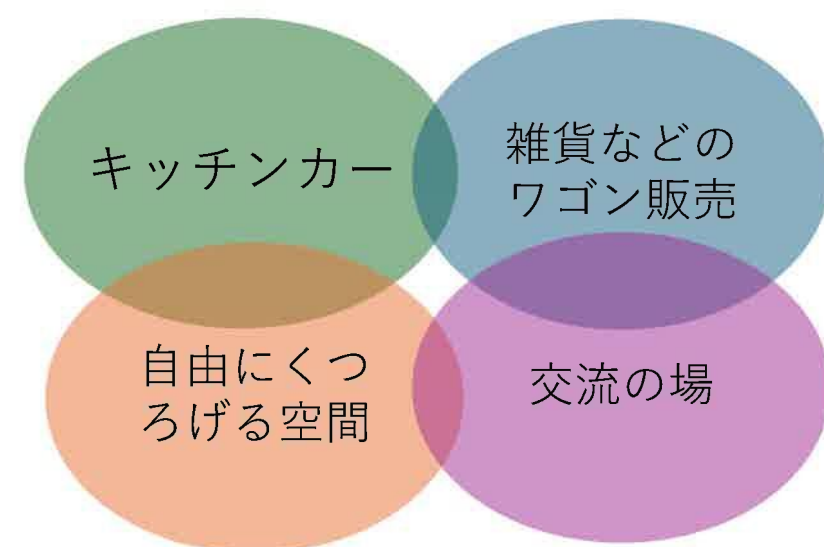
東静岡南口駅前 歩行量調査



通勤・通学で東静岡駅を利用する社会人・学生たちにとって
新たな目的を作ることが賑わい創出につながる

2. グランシップ前芝生公園「おかえりマルシェ」

1か月間、毎週金曜日の夕方から夜にかけて、学校や会社帰り、
お買い物帰りに東静岡駅を利用する人たちをターゲットにした
マルシェを週替わりで開催



3. アピールポイント

- ・滞在時間を増やすことで経済効果が得られる
- ・週替わりでお店を変えることにより、売上・客数を比較することで駅を利用する人たちのニーズを把握できる
- ・東静岡駅南口の集客性を測ることができる
- ・東静岡駅南口を「賑わう場所」というイメージ付けができる
- ・公園で開催することにより、多様な過ごし方ができる

4. 公園×商業施設の実現に向けた長期的な視点

屋上	公園
2階	商業施設
1階	飲食店

<特徴>

- ・開放的な空間
- ・静岡の食文化を発信
- ・人々にとってのサードプレイス

公共の場と商業を組み合わせ、性別・年齢にとらわれない新しい価値と体験を提供

長期的には、街の回遊性を高め、市外からの集客も見込めるような施設の実現を目指す

安心してボール遊びのできる公園にするための工夫

～東静岡駅付近の小学生へのアンケートをふまえて～

②【若者・子ども】若者や子どもが夢や希望を持てるまちへの転換

【アピールポイント】

東静岡駅付近の小学生1200人以上にアンケートを実施！小学生の「あったら嬉しい」を叶える遊び場

【提案する施設】

東静岡スマイル公園・東静岡1号調整池

池田東静岡公園・東静岡2号調整池

【特徴】

- ・ 大型の滑り台が人気
- ・ 幼児から小学生まで楽しめる遊具
- ・ 駅や商業施設が近く、便利な立地
- ・ 近隣の調整池は、大雨時以外は活用されていない

【アンケート結果】

ニーズ

サッカーやドッジボール等のボール遊びをしたい

課題

- ・ 思う存分ボール遊びができない
- ・ 衝突による怪我の危険性

200名以上の
小学生が回答



休日は混雑し、ボール遊びには危険が伴う

安心安全にボール遊びができる専用スペースが必要

【提案内容】

- ・ ボール遊び専用スペースの設置
(ネット等でスペースを区切る)
イメージ：MIYASHITA PARK屋上公園
- ・ 「1グループ15分」等の時間制限を設ける
- ・ 通常時の調整池を、公園以外の遊び場として活用



【設置場所】

スマイル公園グラウンド

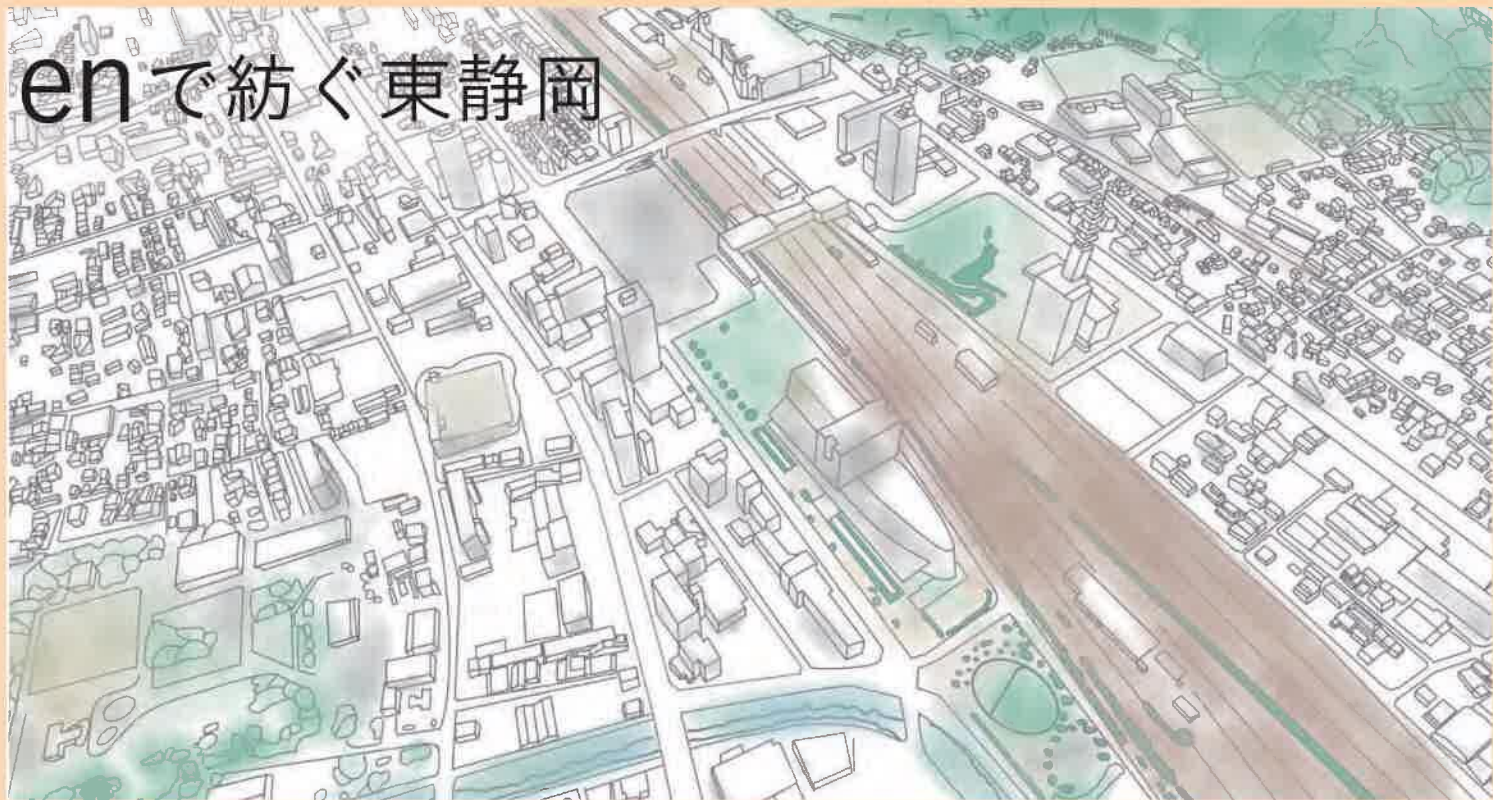
東静岡2号調整池



【期待できる効果】

- ・ ボール遊びによる怪我の危険性の減少
- ・ 安全に思う存分ボール遊びを楽しめる
- ・ 調整池の公共空間としての有効活用

enで紡ぐ東静岡



1. コンセプト

東静岡の都市空間の特徴

東静岡は幹線道路や鉄道により東西の動線が整備されており、公共交通機関や車でのアクセスがよい場所にスポーツジムや複数の公園や広場、グランシップ、マークイズ、温浴施設などがあり、運動やイベントなどに優れた空間が広がる。その一方、車社会であり、国道一号線沿いには自動車販売店も多くあり駐車場も多くある。また車通りも多いためウォークアブルとは言えない。

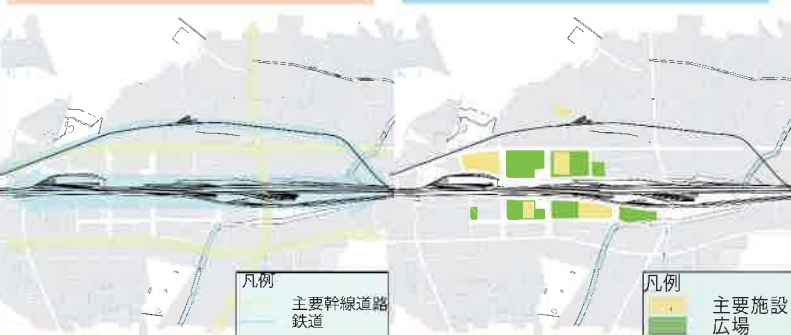
東静岡の魅力と課題

東静岡の魅力

- ・スポーツの関連する店舗・施設が多くある
- ・地区の主要な建物が駅周辺に集積している
- ・駅周辺に広場や公園が多く点在している
- ・学生や子ども連れの家族の姿が多くある
- ・歩道が広い（活用出来るような空間が多くある
- ・交通の便がいい
- ・自転車移動の住民が一定数いる

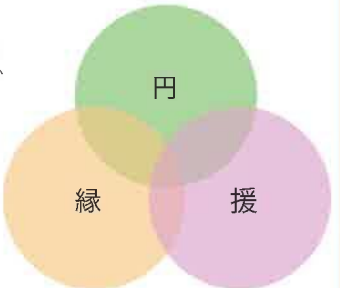
東静岡の課題

- ・飲み屋が少ない
- ・広場に人が少なく、活用があまりできてい
- ・滞留空間、植栽、日影が少ない
- ・改札出すぐの空間の利活用
- ・駐車場が多い（車社会）
- ・新幹線の騒音
- ・線路+車両基地、道路による南北の分断



en

enは東静岡の将来に必要な3つの“えん”の“緑・円・援”である。東静岡の魅力が大いに活かし、現状の課題だけでなく静岡景が抱える人口減少という課題を解決するためにグランシップやマークイズ等の既存の施設や新たに竣工予定のアリーナや図書館のハードだけでなく、“en”からつながるソフト面での取り組みが重要である。これから先30年の東静岡を考える際、“en”が1つずつ完成しこのベン図の中心が東静岡となる願いを込めた。



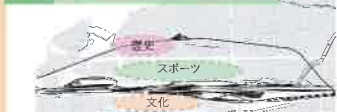
紡ぐ

- I 文化・スポーツの拠点としての街の新たな価値づくり
- II 若者や子供が夢や希望を持てる街への転換
- III 誰もが移動しやすいまちづくり
- IV 多様な人々が訪れたいくなるような魅力的な空間づくり

コンセプトの実現手法

円	提案内容：コミュニティバス、モビリティハブ、ペDESTリアンデッキ 回遊性の向上と南北動線の強化を目的とし、多様な人々が訪れたいくなるような魅力的な空間づくり
緑	提案内容：エリマネ、図書館、グランシップ 東静岡の豊かな歴史・文化・自然から新たなコミュニケーションの場を創出し多様な年代が学ぶ場を作る
援	提案内容：アリーナ、スポーツチームの誘致、宿場町 地域住民と来街者を繋げるきっかけとなり、東静岡に新たな観光資源となり、地元経済の発展を促す

2 エリア



A. 歴史ゾーン

宿場町だった歴史を踏襲し、国道1号沿いにホテルや飲食を集積することで来街者とまちを繋ぐ。また、飲食店を多く設けることで、来街者の拠点を作るとともに、かつらの賑わいを蘇らせる。

B. スポーツゾーン

現在の清水区にある清水エスパルスのクラブハウスを東静岡駅前に移転させることで、周辺住民の方はもちろん、全国のサポーターが集まる「スポーツの拠点」をつくる。さらに、アリーナの横には、ペDESTリアンデッキ静岡の事務所及び選手室を向け、「スポーツの拠点」をつくる。

C. 文化ゾーン

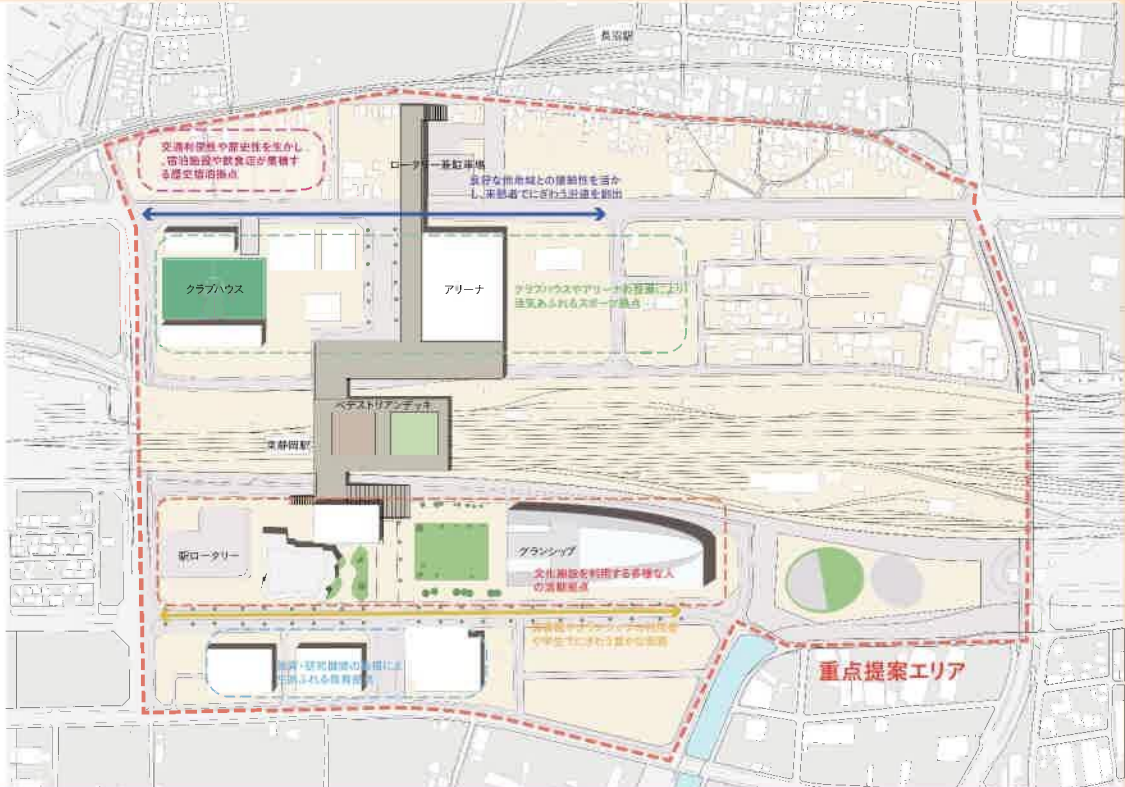
新県立図書館やグランシップなどの文化施設を集積させ、その付近には自然豊かなオープンスペースを点在させることで、人々の交流と憩いの場をつくる。

D. 教育ゾーン

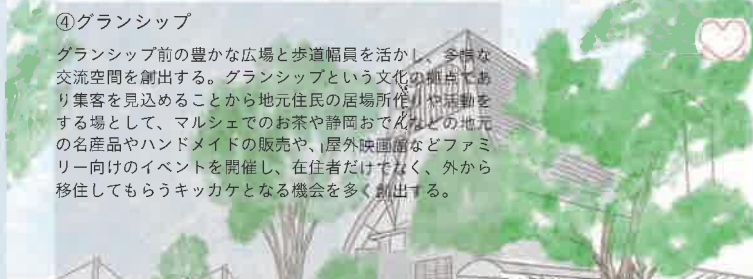
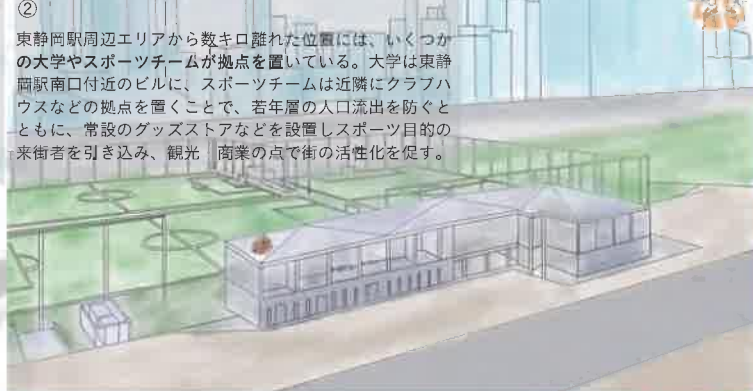
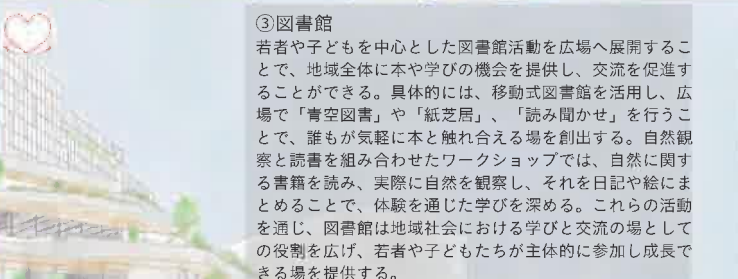
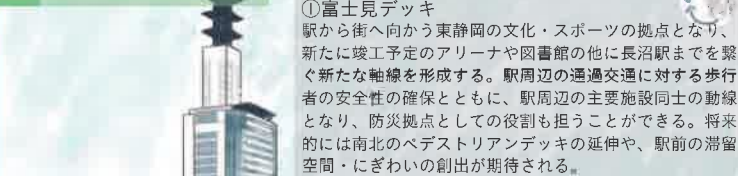
オフィス及び大学などの教育施設を集約し、食・遊・憩などの多彩な機能を有するミクストユースをつくる。ワーカーや学生が増えることで、多様な文化やイノベーションの促進及び地域経済やコミュニティの活性化が見込まれ、その結果まちの魅力の向上が期待できる。

E. スーパーブロックゾーン

通過交通や車社会からの脱却を目指し、リンク&プレイス理論を用いて道路の特性を把握したうえで、道路の付け替えを行う。その際住宅街はプレイス機能を持たせ、スーパーブロックを計画し、住みやすいまちを実現する。



4 提案



3 事業スケジュール

文化・観光の新たな拠点であるとともに、快適な住環境を整備し、地域住民から来街者まで心地よいと感じる空間を提供。最終的には、文化・スポーツ・住環境が連携をとり、地域全体の活力や魅力があふれるまちを目指す。

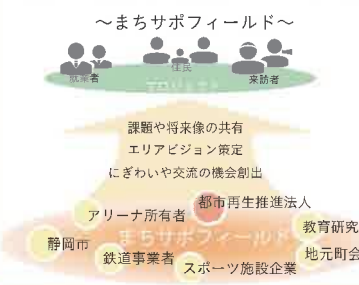
文化の拠点



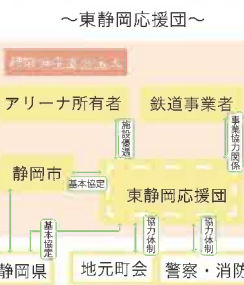
enを紡ぐ仕組みの構築

駅周辺事業者や市民や来訪者の活力を活かし、東静岡らしいまちづくりを推進のため、多様なステークホルダーと連携する①プラットフォーム②エリアマネージメント団体を組織。協議により、東静岡に根付く人々の想いを共有し、緑をはぐくむ。

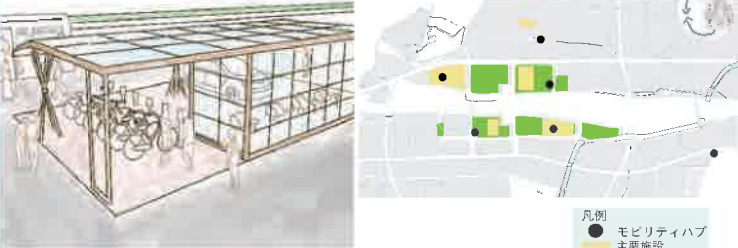
まちづくりをサポートするプラットフォーム



まちサポフィールドの実行主体



⑤モビリティハブ



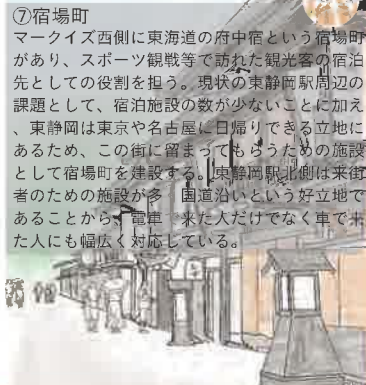
多様なマイクロモビリティを配列し、車通りを減らすだけでなく、車を持たない学生や来街者のためのハブを複数備えることで東静岡の環境負担を減らすとともに、利便性が増し、経済を活性化させることに繋ぐ。東静岡の課題である国道の交通量や駐車場の多いという点の改善や未来の交通手段への対応へのシフトが必要であるため、モビリティハブを整備する。

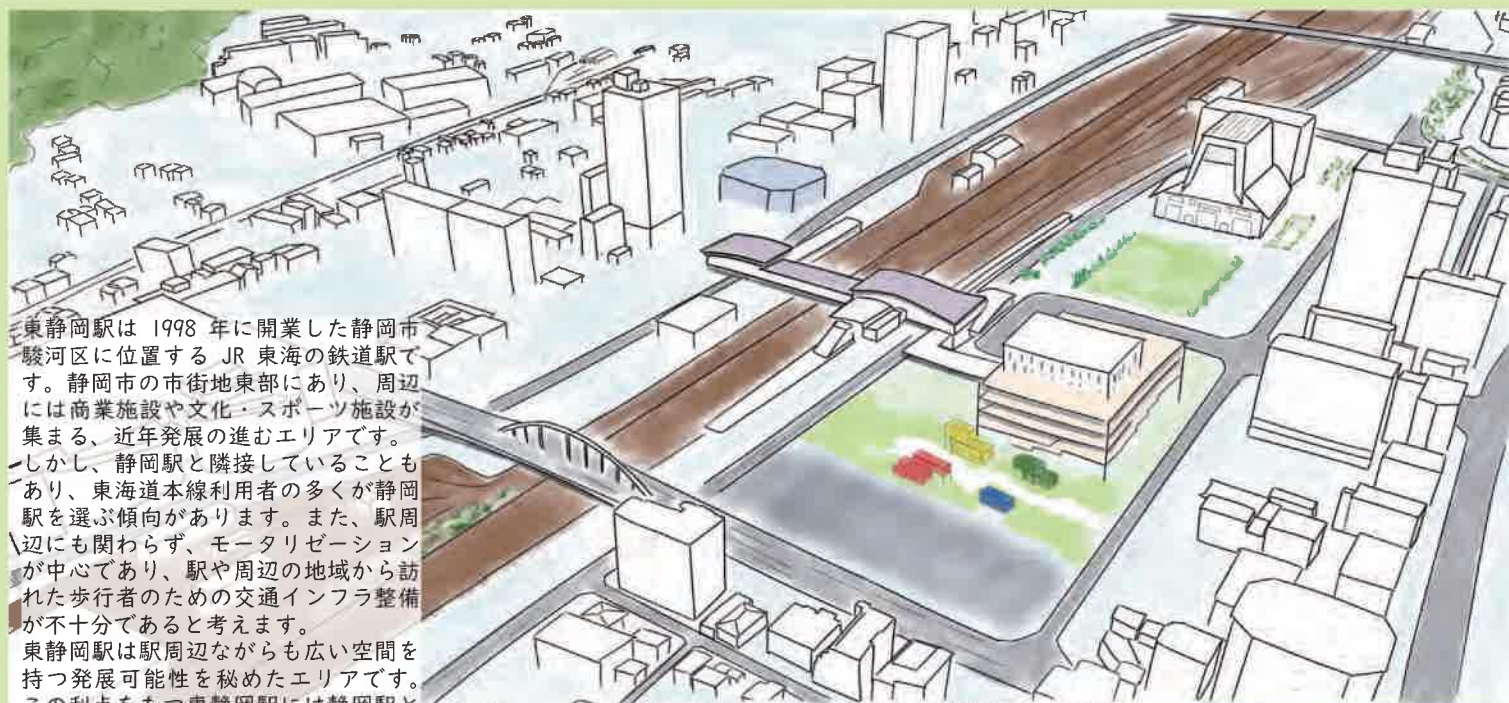
⑥スーパーブロックと駐車場整備



長期的な提案として都市計画道路制度を活用した広域なゾーニングである道路付け替えを提案する。「リンク&プレイス理論」を用いて道路空間を評価し、通過交通と歩行者優先道路を分けることで幹線道路以外の駅周辺道路の自動車交通量を減少させ、歩行者量を増やすことで東静岡駅周辺エリアから活性化の輪を広げる役目を果たす。

⑦宿場町

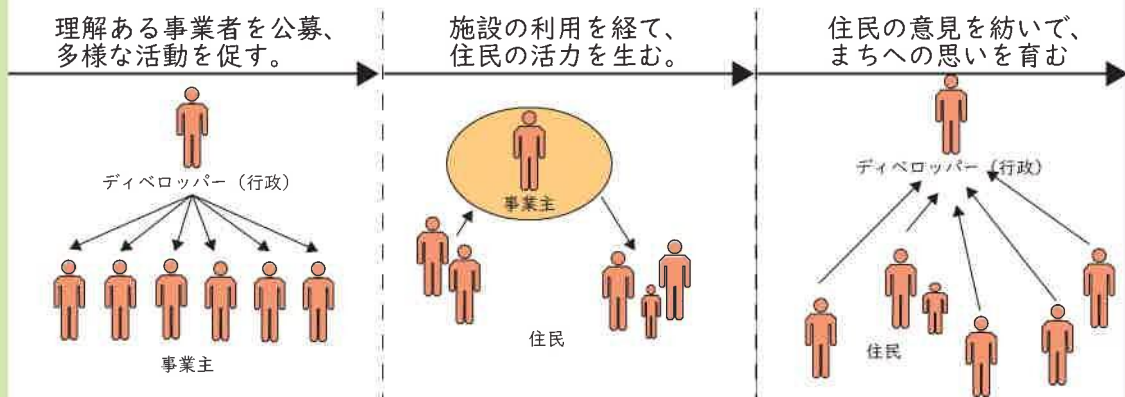




東静岡駅は 1998 年に開業した静岡市駿河区に位置する JR 東海の鉄道駅です。静岡市の市街地東部にあり、周辺には商業施設や文化・スポーツ施設が集まる、近年発展の進むエリアです。しかし、静岡駅と隣接していることもあり、東海道本線利用者の多くが静岡駅を選ぶ傾向があります。また、駅周辺にも関わらず、モータリゼーションが中心であり、駅や周辺の地域から訪れた歩行者のための交通インフラ整備が不十分であると考えます。東静岡駅は駅周辺ながらも広い空間を持つ発展可能性を秘めたエリアです。この利点をもつ東静岡駅には静岡駅とは違った魅力を持つまちづくりが必要です。そのためのキーワードは歩きたくなる駅です。（視点番号①～④）

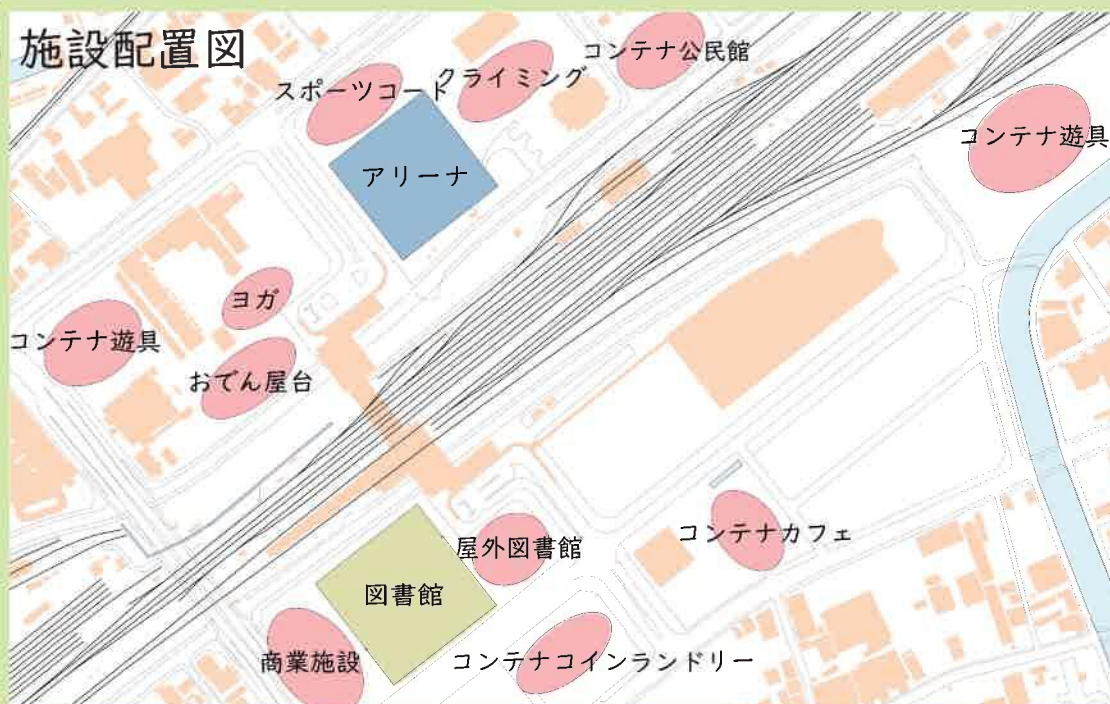
まぐまぐ東静岡

SCHEME



ディベロッパー（行政）がテリトリーに出店もしくは、ワークショップを目的として、土地使用料の低減などのメリットを報酬として公募し、活動を増やす。テリトリーを訪れることで経済活動、文化活動を活性化、その人だけの居場所を見つけることを目的とする。利用者からの改善に向けての意欲増進に繋がればなお良い。

施設配置図



ISSUES

- ・静岡駅への人の密集化
- ・若者が自由に集まれるコミュニティスペースが少ない
- ・道路が整備されているが、車両の交通量が多く、通学路の不安全
- ・駅周辺にも関わらず、空き地として放置されている部分がある
- ・自転車、バスなどの2次交通がスムーズでない
- ・地域間の不均衡



現在、東静岡駅周辺に図書館とアリーナ整備が計画されている。他にも、現在建っているマークイズ静岡やグランシップのような楽しめる施設がいくつか存在する。しかし、施設が個別で存在し、まち全体として孤立しあっているように感じる。施設をつなぐ道は広いという利点があるにもかかわらず、車社会のため、目的の施設に行った後は素通りしてしまう。そこで、都市をつなげ、駅中心地としてにぎわいとくつろぎを提供する自然空間が必要だと考えた。具体的に、主に駐車場や空き地を利用して、新たな施設、空間を創り出す。駅周辺にも関わらず、駐車場の割合が多いため、駐車場を減らし、歩くことを優先させる。これにより、アリーナを訪れた人、図書館を訪れた人が、そこで終わり、駅に戻るのではなく、訪れた人を止め、ここに寄ってみたい、気になるから立ち寄ってみようといった空間が生まれ、より外部からの人の滞在時間を増やしていく狙いである。

・動線計画

東静岡駅周辺の建物が多く密集しない、見渡しの良い利点を無くさないようなさまざまな施設を設置することで、ふと滞在してみたくなるような空間を散りばめることで、歩行者の動線を増やす。

・新たな空間例



.....アリーナ、図書館が建設された後、外部から訪れた観光客などによる歩行者の予想される主な動線

.....駐車場や空き地を新たな施設、空間であるにぎわいの場に変化させたときに予想される歩行者の動線

Next 東静岡

～創る・継げる・結わえる街へ～

新たにアリーナと図書館が新設することで、さらに交通渋滞加速することに対する地域住民の不安の声が上がっている。

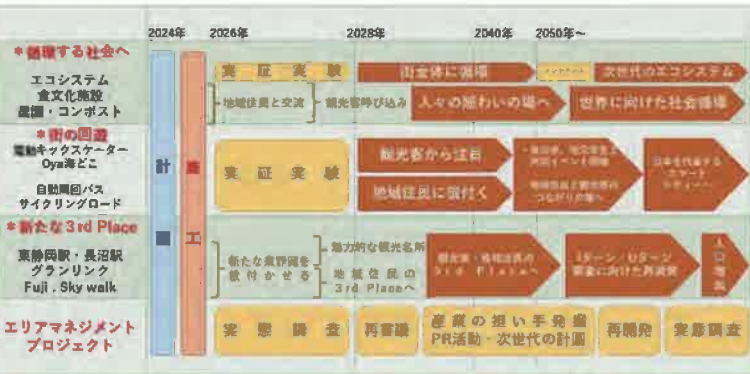
一方で観光客が増え、来訪者や地域住民の活動域が広がり、経済効果を生み出すことも考えられる。そこで、人々と車両の動線を明確に分け、混雑緩和を促すと共に、東静岡のPRとして、スポーツ、アート、食を活かした文化に関連する集客施設を設ける。また、将来的にIターン、Uターンによる人口増加を促すために、街の各所に幅広い年代層が共存できる交流の場、つまりサードプレイスを提案する。

提案

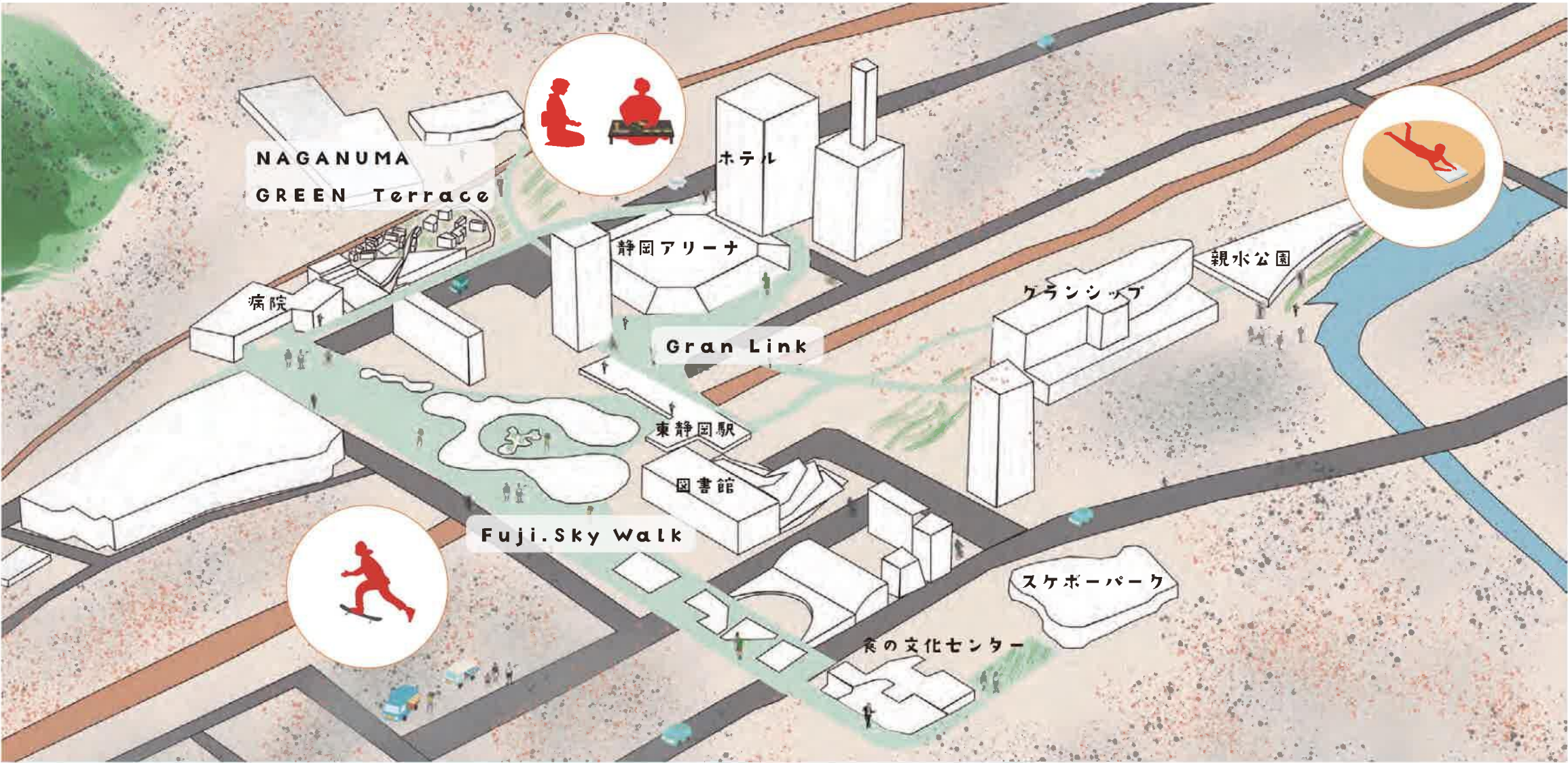
- ・歩車分離で、優れた回遊性のペDESTリアンデッキ
- ・川を流れるモビリティで交流空間の創生
- ・次世代のスマートシティの構築
- ・日本を代表するスポーツの発信地
- ・東静岡ならではの食文化を全国に発信

エリアごとの整備方針

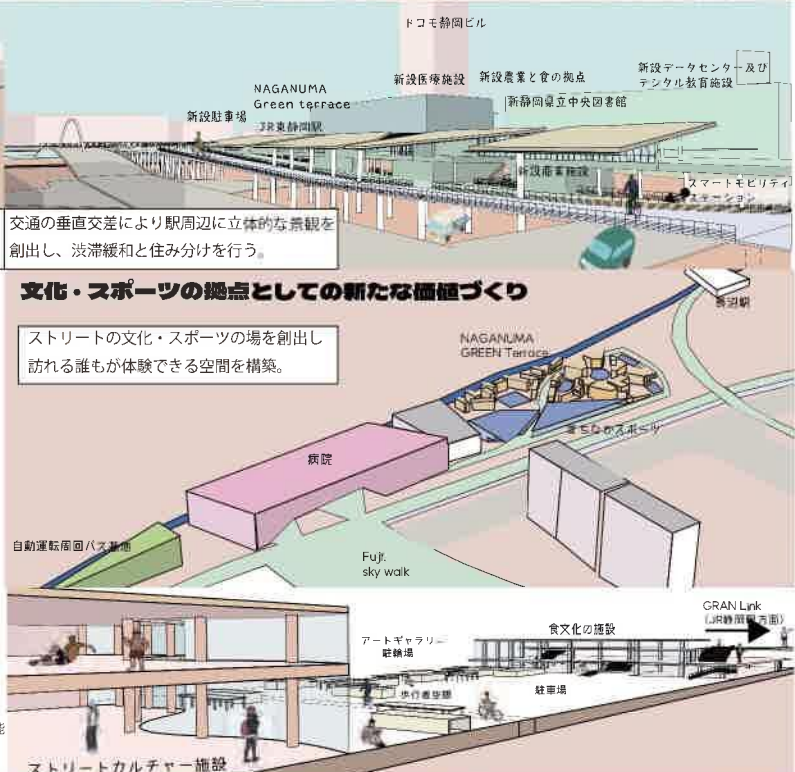
- ①文化とスポーツを結ぶデッキ
空間の遮断となっていた緑地、デッキを設置することにより各エリアの連続性を実現。
- ②医療者判断
高所を結ぶことで災害時にデッキにトリップ場所を設けることで災害時の対応を容易にする。
- ③親水公園との関わり
河川を観光、物流の場として水辺空間を創出し街へ。
- ④医療施設を身近に
高規格道路をデッキで高架化することで、医療との距離を近づける。
- ⑤日本最大級のデッキをサードプレイスへ
人な流れが多いデッキに特産品を陳列する場。体験できる草花や定置のような魅力的な施設の設置で人々が集まりたくなる空間へ。
- ⑥新たな街の中心地
新たな街のシンボルとなるアリーナ。ここから街の発展が期待される。
- ⑦災害対策の検討
新行時の広域にデザインライトを設置。災害時には避難場所への誘導に活用。
- ⑧親水空間を災害時にも活用
河川を物流や人々の避難場所として利用。
- ⑨動線の三層化
歩行者、自転車、車両の動線を分離することでエリア間の移動をスムーズにします。



交通手段の多様化とステーション分布



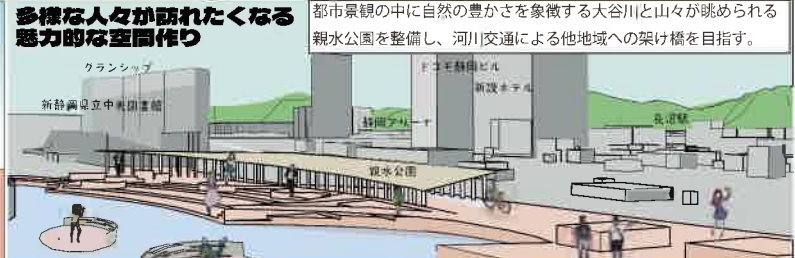
誰もが移動しやすいまちづくり



若者や子どもが夢や希望を持てるまちへの転換



循環型スマートシティ、東静岡へ



東静岡駅前巨大デッキ

コンセプト

現在、東館岡は、東館岡駅とグランシップが中心となり、子供連れの家から学生、社会人まで様々な人が利用している。

その上は、室上山がよく見えるスポットがあったり、東御園駅を通過、停車する電車を見たりすることができる。しかも、東御園駅が市街に出ようとして、北口を降りた直ぐの所には、道筋が早く公園と道順になっただけ。しかも、何路一歩標を横断しようとするとき、併走の時間が長いときや、北口とグランシアタの間を移動しようとするとき、未開路駅を経由して公園まで移動できないとき様々な問題を抱えている。

さらにアリーナや曙原公園の築設により、東勢岡氏が中心となり、さらに多くの中間や主が密着することが考えられる。

また、マリナー予定地は元々緑豊かな公園であったため、建設されると緑や外に出て遊ぶ
ベースが制限されるだろう。

そこで私は、スケートボードやBMX、バスケットコート等を配置し、誰でも気軽に運動ができ、富士山もよく見えるような、東静岡駅に直接つながる巨大デッキを建設する。

これは、アリーナでイベントが開催されるときは、主として手段として、開催されていないことは、緑豊かな公園として、地域住民のみならず、多くの人が利用されることが考えられる。

また、交通圏も増えることから、駅北口を中心に道を三車線ずつにし、アリーナを利用する人が効率よく移動できるようにする。デマキを境に車両と歩

行者の移動手段を分けることで、事故や渋滞を減らすことができる。国道一帯線を横断するまで安全に移動できるよう、

大きな歩道橋も設けた。
誰もが安心して安全に移動

1. やすく楽しめるような
遊具を提案する。

スケートボード & BMX ができる公園

オリンピックや世界大会にて多くの日本人選手が活躍するスケートボード。最近でも実施できるような場所を設けることで、より盛り上がるのではないかと考える。

バスケットコートのある公園

バスケットコートや、ランニングコース、内側に自由に使用することが出来る運動場を配置することで、より多くの人が気軽に運動することができる。

富士山が見えるデツキ

北側を見ると、富士山がきれいに見えることから、富士山をデックのどの位置からでも見ることができるよう、四方形でなく斜めになるようにした。また、スカソの売店や、一面の芝生を配置することで、家族連れや様々な人が食事やピクニックをすることができるようにした。

設計段階1 (設計開始～5年)

新幹線と在来線の線路の間にある空間をうまく利用し、省
みがあるよう設計。地面自体はコンクリートで敷き詰める。

設計段階2 (5年~10年)

ト（ゾフォウノック：混合物中に含まれるゴムチップ量が40%のため、足腰や膝への負担を減らすことができる。）を使用。

設計段階3 (10年~15年)

植え込みを苗の状態のものを植える。各公園に生や運動場、
用の砂、スケートボードの地面を貼る。

設計段階4 (15年～)

アリーナの建設が完了し、草木の成長とともに人が増え、リーナのイベント時には移動手段として、イベントがなくても公園として賑わう。

東時國駅と国道一号线横断を結ぶ歩道橋

デッキの下になるべく人が交わらないようにするために、玉道一ヶ番を直接横断することができるような歩道橋を配置する。創作者は、東武駒沢駅周辺にある学校の生徒や、都営鉄道の浅沼駅へ轉乗する人が見込まれる。歩道橋には、屋根を付けることで雨の日にも安全に国道一ヶ番の信号機待ちの時間を解消することができると。

東静岡駅前巨大デッキ

全体平面圖

アリ-ナ

アリ-ナ

圖道一號

連絡説明

車騎風歌

市街の密集が考えられることから、現在駅前場と北門の間を通る道路を広くし、車の流れを良くする。

2中絶ぎつちのボーターから3車絶ぎつちのコーターにし、国道一帯に六かう3車絶の一帯マンション側の1車絶は、マンションを利用する人が中心となって利用するものにする。

アリ-ナ

アリーナ

アリーナの3車線のうちの一番アリーナに近い車線は、アリーナに直接人が移動できるよう、広くし、コートリーも利用することができるようにする。また、バックヤードに下を車両、上を歩行者と分けることで、人と車両の事故の減少や車の流れを良くすることができ、より安心、安全に利用することができる。

सन् १९३३

२८३३३

アリ-ナ

コンペ提案作品から東静岡地区まちづくり基本構想（骨子）へ反映した主な事項

提案作品	まちづくり基本構想（骨子）へ反映した主な事項
【都市デザイン部門】 最優秀賞 ：LIFE Streaming	● 「非日常（文化・スポーツの拠点）と日常（住みやすい住環境）」がお互いに寄り添うことが大切との提案を受け、『めざす将来像』に非日常と日常が融合した新時代のまちづくりと記載した。 （⇒資料4 p 1） ● 市民の活動の場が点から始まり、点が集積して線となり、面的なまちづくりに波及するとの提案を受け、『まちづくりの視点【土地利用】』に市民の活動の起点となる小さな場の点在による、まち全体への人の流れの創出と記載した。（⇒資料4 p 3）
【都市デザイン部門】 優秀賞 ：東静岡「緑と水が織りなす新しい東海道」子育て世代が集う、持続可能な理想都市	● 今後のまちづくりにおいて「持続可能性」が大事な要素であるとの提案を受け、『まちづくりの視点』に新たに【グリーン】を追加し、緑地保全や緑化推進、環境に配慮した都市開発事業の促進等と記載した。（⇒資料4 p 4）
【まちを楽しむ部門】 審査委員特別賞 ：みんなで紡ぐコミュニティガーデンとサイクリングロード	● 様々な世代と関わるのが難しい現代において、子どもたちが夢や可能性を抱くきっかけとなるような空間の創出とその空間をつなげるとの提案を受け、『まちづくりの視点【若者・子ども】』に子ども達と地域をつなぐ場での滞在・交流を通した、地域への関心や愛着の醸成と記載した。（⇒資料4 p 2）
【まちを楽しむ部門】 会場人気特別賞 ：ノマド学習からはじめる若者の関わりしろ	● 東静岡に学生が集まる居場所を設け、この居場所をきっかけに地域社会との交流が生まれ、静岡に対する愛着につながっていくとの提案を受け、『まちづくりの視点【若者・子ども】』に学生と地域をつなぐ場での滞在・交流を通した、地域への関心や愛着の醸成と記載した。（⇒資料4 p 2）
その他の提案作品	● 地場産業や農業、バスケットボールなど、既存のものづくりや文化・スポーツの資源を活かし、新たな価値・魅力を生み出す空間や場の創出との提案を受け、『まちづくりの視点【文化・スポーツ】』にものづくりや文化・スポーツの資源を活かした滞在・交流による、新たな価値・魅力の創出と記載した。（⇒資料4 p 2） ● 東静岡が世代を超えて愛され、記憶に残りつづけるまちであるためのアイデアとして、まちに「青春」を受け止める場があり、その青春をまちの人で育てることが大事であるとの提案を受け、『まちづくりの視点【若者・子ども】』にまち全体で「青春」を育み・支え・応援できる空間・仕組みづくりと記載した。（⇒資料4 p 2）

「静岡市アリーナ基本計画」について

1 「静岡市アリーナ基本計画(案)」について

静岡市は、これまでの市内の施設では実現できなかった、最高峰のプロスポーツの試合や大規模なコンサートが開催可能な多目的アリーナを、JR 東静岡駅北口市有地に整備することをめざしています。

人口減少・少子化が市の大きな課題の中、アリーナは、まちの魅力向上、文化振興、地域経済の活性化など、大きな経済社会効果を生むとともに、市民に新たなスポーツ・エンターテインメントコンテンツを提供し、ワクワク・ドキドキといった感動体験をもたらします。

市がめざすアリーナとはどのような施設なのか、どのように事業を進めるのか、などをまとめた「静岡市アリーナ基本計画(案)」を 10/25 に公表しました。



●静岡市アリーナ基本計画(案) <https://www.city.shizuoka.lg.jp/s5423/s013086.html>

●静岡市がめざすアリーナ

地域のためのアリーナ	・東静岡の文化・スポーツの拠点になるとともに、地域のまちづくりや防災にも役立れます。	 アリーナのイメージ（沖縄アリーナ）
集うアリーナ	・市民、市外や県外から人が集まり、新たな交流や経済効果を生みます。	
選ばれるアリーナ	・いろいろな演出ができて、イベント会場として使いやすい、主催者や観客から選ばれるアリーナとします。	
観るアリーナ	・バスケットボールやバレーボールなど、最高峰のプロスポーツの試合や、大きなエンタメイベントを実現します。	
持続可能なアリーナ	・民間のアイデアを活かした運営やサービスにより、将来にわたり魅力があり、収益を生み出すアリーナとします。	



バスケットボール



バレーボール



コンサート



光と音の華やかな演出

2 パブリックコメントの結果および「静岡市アリーナ基本計画」の策定・公表について

基本計画(案)のパブリックコメント（市民意見募集）を 10/25～11/29 に行い、110 名の方から 252 件のご意見をいただきました。

これらのご意見をふまえ、おもに以下の内容について基本計画(案)に反映し、2月に「静岡市アリーナ基本計画」を策定・公表します。

○富士山の眺望や、静岡らしい飲食の提供など、静岡市アリーナが独自の魅力や特徴を持つことを追記

○「静岡市がめざすべきアリーナ像」に、「若者が挑戦・成長できる場の提供」を追記

○経済波及効果・雇用者所得誘発額の算定方法の考え方を追記

また、いただいたすべてのご意見に対し、市の考え方をお示しし、ホームページ上に掲載します。